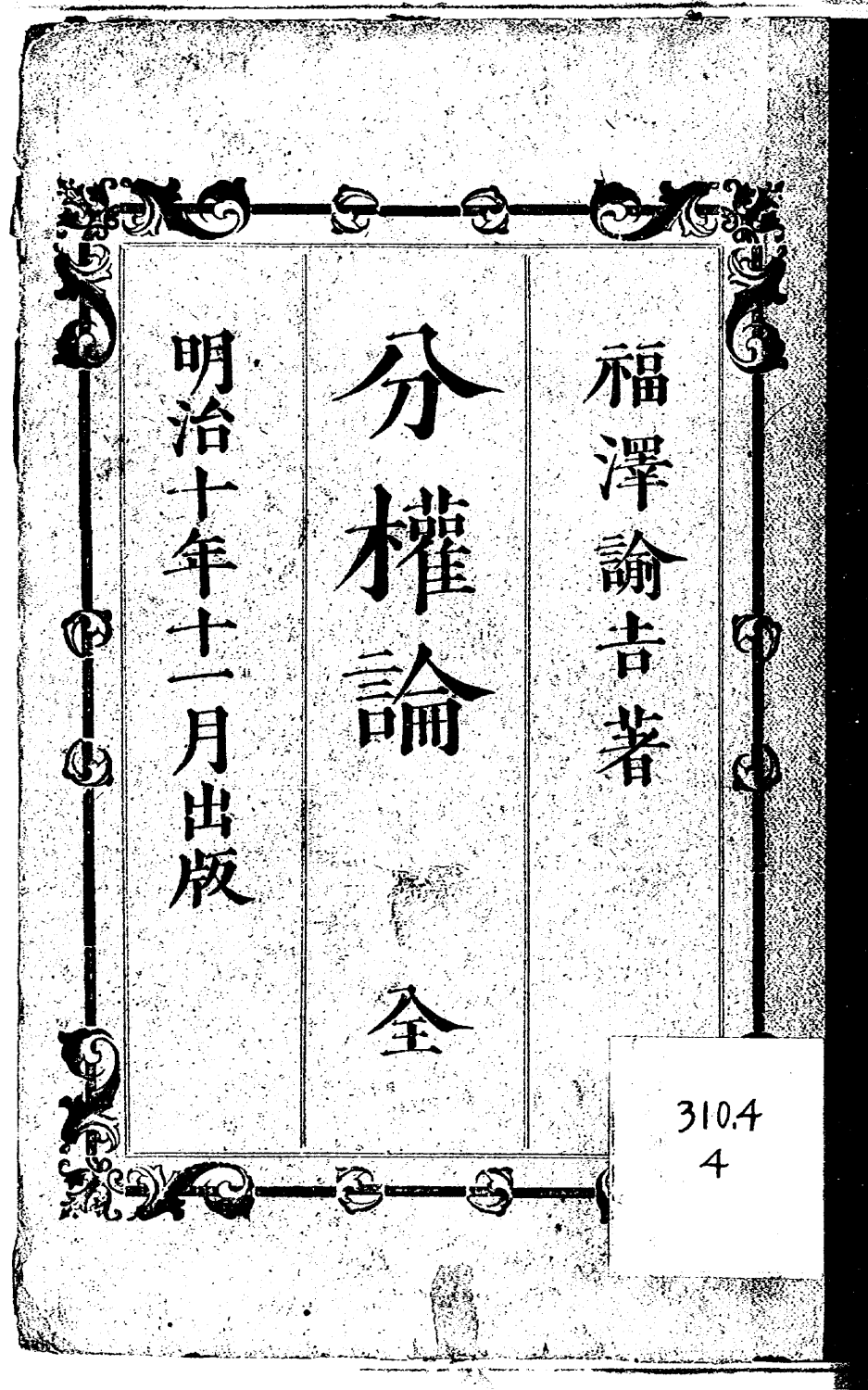




B 9

1418



五五
五五

五五
五五

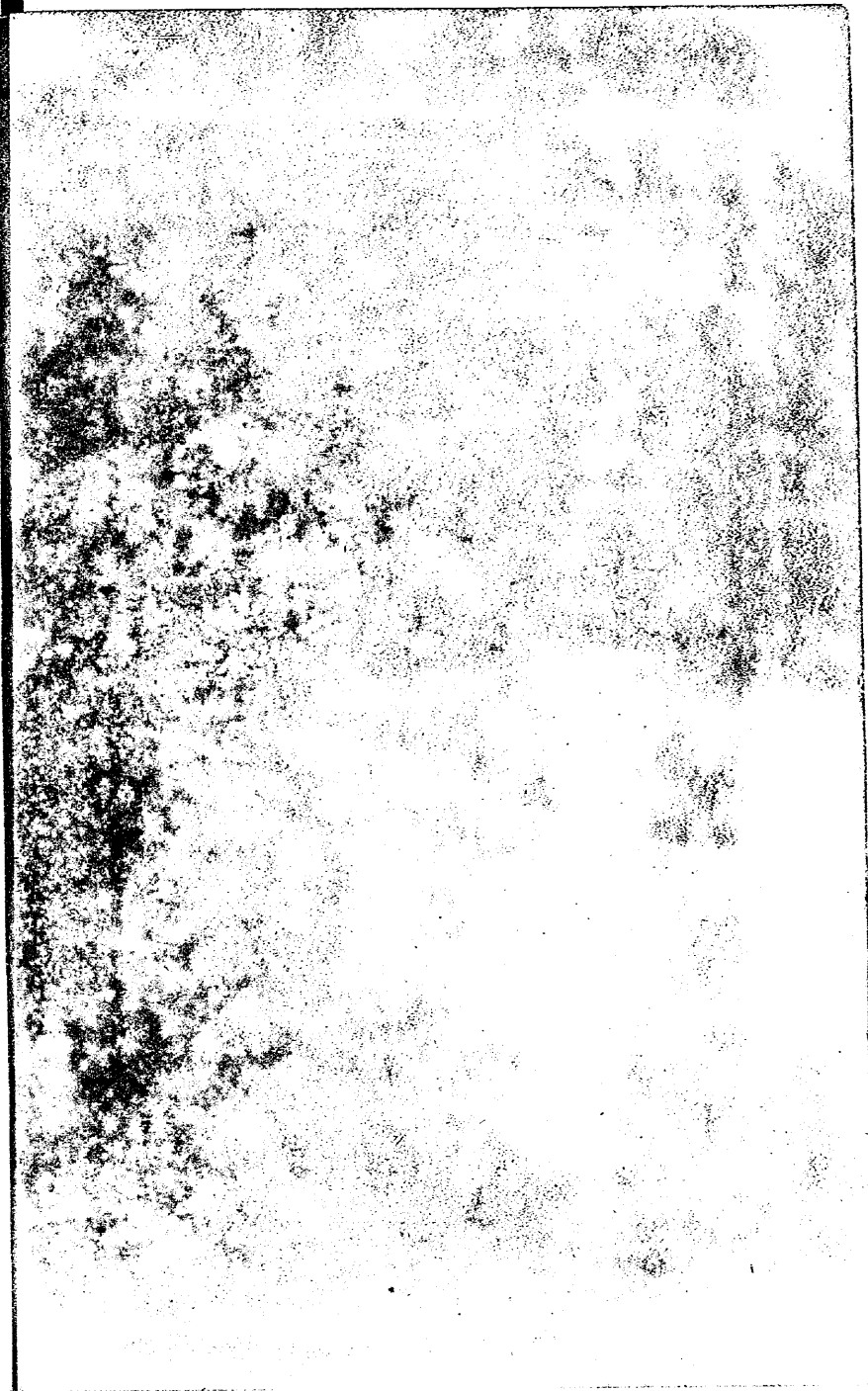
福澤諭吉著

分權論

全

明治十年十二月出版

五五
五五





題言

此書一編ハ我社友隨時會席ノ茶話ヲ記シタルモノニテ
左マデ珍ラシキコトニ非ズ但シ炒豆ヲ食ヒ茶ヲ吃シテ文
ヲ論シ理ヲ談ズルノ際ニハ其語次様々ノ事ニ亘リ席散
シテ靜ニ考レバ今夕ハ果シテ何事ヲ話シタルヤト身躬
カラ之ヲ知ラザルガ如キモノアリ社友ノ間ハ唯歡娛自
カラ適スルノ目的ナレバ是レニテモ差支ナシト雖モ千
緒萬端勝手次第ナル談話ノ中ニハ國權ナゾノ事モ雜リ
テ文談ト政談ト雜駁シ万世ノ理論ト今日ノ權論ト同時
ニ發シテ他人ノ之ヲ聞ク者ハ或ハ大ニ誤解センコトモ計
リ難シ依テ此雜誌ノ中ニ就キ分權集權ノ事ニ少シク條

理ヲ立テ、著書ノ体裁ニ綴リタルモノナリ故ニ本編ノ
 著者ハ唯茶話ノ筆記著ト認ム可キ人ト明治九年十一月
 著者記

（以下は非常に淡く、ほとんど不可読な文字列が続く）

分權論

福澤諭吉 著

草木鳥獸
 ナ殺シ其
 發生ノ力
 ナ消滅シ
 テ食物ト
 シテ食フ
 爲セバ其
 力變シテ
 人類ノ生
 力ト爲ル
 人類終日
 ノ力ヲ以
 テ五貫目
 ノ兩掛ヲ
 離ニ運搬
 十里ノ距

石炭ヲ焚ケル熱ヲ生シ其熱ヲ以テ水ヲ蒸スレバ之ヲ化シテ蒸氣ト爲
 シ其力ヨリ舟車ヲ動かサ可シ故ニ蒸氣船蒸氣車ノ運轉スル力ハ蒸氣
 ヨリ生シ其蒸氣ハ石炭ノ熱ヨリ生スルモノナレバ蒸氣船車運轉ノ力
 ハ石炭ノ中ニ含有スルモノト云フ可シ而シテ此石炭ハ數千万年ノ前
 世界ニ生々シタル植物ノ化石タルモノニシテ其植物ハ當時太陽ノ温
 ト光トニ由テ成長シタルモノナレバ今ノ石炭ノ中ニ含有スル力ノ源
 ハ數千万年以前ニ燿キタル太陽ニ在リト云フ可シ蓋シ天地間ノ力ハ
 無ヨリ有キ生ス可ラズ有テ消シテ無ニ歸ス可ラズ其有様ハ猶物質
 滅ス可ラズ又造ル可ラザルカ如シ力ナリ物ナリ之ヲ見テ消滅スル

スレバ其
生力兩掛
ノ運動ニ
移ルガ故
ヲ以テ生
力ハ欠ナ
價ハザル
可ラス是
等ノ事相
ヲ名ケテ
力ノ變形
又ハ力ノ
不滅ト云

往古ヨリ
日本ノ武
人暴ナリ
ト雖モ掠
奪ノ爲ニ
師ヲ起シ
タル者ア
ルヲ聞ガ
ズ其戰爭
ノ趣意ナ
リ又辭柄
ナリ民ヲ
塗炭ニ救
フト云ハ
ザル者ナ
シ西洋諸
國暗黒ノ

四

ト云フモノハ事實ニ於テ無ニ歸シタルニ非ズ唯其形ヲ變シタルノミ
物ニ在テハ之ヲ物ノ變形ト云フ油ノ形ヲ變シテ瓦斯ト爲シ烟草ノ形
ヲ變シテ烟ト灰ニ爲スガ如シ力ニ在テハ之ヲ力ノ變形ト云フ即チ前
ノ蒸氣力ノ例ノ如シ
人ノ心身ノ働モ一種ノ力ナリ無ヨリ生シテ有ノ形ヲ爲スモノニ非ズ
又其有ヲ消滅シテ無ニ歸ス可キモノニ非ス唯時ニ隨テ形ノ變化アル
可キノミ譬ヘバ讀書ハ人ノ心ノ働ナリ今漢書ヲ讀ムト洋書ヲ讀ムト
ハ其趣ナ異ニスレモ年來漢書ヲ勉強シタル者ハ必ス洋書ヲ學ビ得ル
ヲ速ナリ又巧ニ洋書ヲ解ス者ハ嘗テ漢書ヲ見タルヲナキ者ニテモ之
ヲ讀メバ必ズ其意味ヲ取ルヲ容易ナリ讀書ノ力ノ消滅セザル證ナリ
又町人ノ商賣ヲ替ヘタル者ハヨク事ヲ成シ士族ノ始テ商賣スル者ハ
必ス之ヲ破ル商賣ノ力ノ俄ニ生セザルノ證ナリ是等ノ例ヲ舉レバ計

フルニ違アラズ今我日本ノ事勢ニ就テ之ヲ論セン
上世ノ事ハ姑ク關キ徳川政府ノ初ヨリ嘉永年間ニ至ルマデ國事ニ關
スル者ハ必ス士族以上ノ人種ニ限リ農工商ノ三民ハ唯其指揮ヲ仰テ
僅ニ其身体ヲ養フニ過キズ或ハ町人百姓ノ内ニモ字ヲ學ヒ文ヲ弄テ
心ヲ樂シマシムル者ナキニ非ザレバ政治ノ一段ニ至テハ舉テ之ヲ士
族ニ任シ遙ニ下界ニ居テ上流ノ舉動ヲ仰キ見ルノミ其趣ヲ形容スレ
バ農工商ノ三民ニハ一身肉体ノ生アルノミニシテ政治ノ生ナキ者ト
云フ可シ士族ハ則チ然ラズ十俵ノ足輕ト雖モ荷モ武家ノ名アレバ軍
役アラザルモノナシ軍役トハ何ヤヤ政治上ニ事ヲ生シテ君家ノ安危
ニ關シ兼テ社會ノ利害ニ差響クノ場合ニ至レバ戰場ニ向テ死生ヲ決
スルヲナリ既ニ國事ノ爲メニ命ヲ致スノ任アリ終身コレヲ心ニ關シ
テ片時モ忘ルノ暇アル可ラズ土民ニシテ政治上ニ無心ナリシカハ

五

時代ニ唯
掠奪分捕
的トシテ
亂妨ヲ逞
フセシモ
ニ趣ヲ異
ニセリ日
本ノ武家
ニ權威ヲ
有シテ人
民ノ柔順
卑屈ナル
モ自カラ
其由縁ア
ルナリ

既ニ兵隊ニ編入スレバ必ズ國事ニ耳足輕尙且然リ況ヤ其以上ノ士族
ヲ傾ルノ念ヲ生スルハ必然ノ勢ナリ是輕尙且然リ況ヤ其以上ノ士族
ニ於テチヤ啻ニ戰場ノ軍役ノミナラズ現ニ政ヲ行フ者アリ或ハ現ニ
之ヲ行バザルモ傍ヨリ之ヲ議スル者アリ之ヲ議シ之ヲ論シ之ヲ喜ビ
之ヲ憂ヒ讀書モ政治ノ爲ナリ藝術モ國事ノ爲ナリ一身ノ譏譽モ爰ニ
在リ一家ノ榮辱モ爰ニ在リ概シテ之ヲ云ヘバ士族ノ生ハ國事政治ノ
中ニ在テ存シ四十万ノ家ニ眠食スル二百万ノ人民ハ男女老少ノ別ナ
ク一人トシテ政談ノ人ニ非ザルヤナシ傳ヘ聞ク亞米利加ノ人民ハ所
謂「ボリチカル、アイデヤ」ナルモノヲ抱テ人々一國公共ノ事ニ心ヲ關
スルノ風アリト云フト雖モ日本ノ士族ガ國事ニ意ヲ留ル程ノ甚シキ
ハナカル可シ固ヨリ東西習慣ニ異ニシ日本ニテハ君家ニ忠義ト云ヒ
戰場ニ討死ト云ヒ文武ノ嗜ト云ヒ武士ノ心掛ト云ヒ亞米利加ニテハ
報國ノ大義ト云ヒ國旗ノ榮辱ト云ヒ憲法ノ得失ト云ヒ地方ノ議事ト

云ヒ其趣ハ双方全ク相同シカラスト雖モ國事ニ關シテ之ヲ喜愛スル
心ノ元素ニ至テハ正シク同一様ナリト云ハザルヲ得ズ
日本ノ士族ハ數百年ノ久シキ其心ヲ政治上ニ養ヒ世々ノ教育相傳ヘ
テ以テ一種ノ氣風ヲ成シ他ノ三民ニ比スレバ全ク人種ノ異ナル者ノ
如シ士族ハ恰モ其心身ノ働チ二様ニ分ナ一ハ以テ肉体ノ生ヲ保チ一
ハ以テ政治上ノ生ヲ保チ者ノ如シ三民ノ生ハ單ナリ士族ノ生ハ複ナ
リ三民ノ働ハ内ノ一方ニ在リ士族ノ働ハ内外ノ二方ヲ兼スルモノナ
リ斯ル教育ヲ以テ養成シタル此士族ノ働ハ即チ我日本ノ社會中ニ存
在シテ其運動ヲ支配スル一種ノ力ナレバ仮令ヒ一旦ノ事變ニ逢フモ
頼ニ之ヲ消滅シ盡ス可キモノニ非ズ唯其形ヲ變スルヲアル可キニ
蓋シ天地ノ間何等ノ力ヲ雖モ有ヨリ無ニ歸ス可ラザルハ事ノ真理ナ
レバナリ

嘉永ノ末年ニ外交ヲ開キシハ我國開闢以來ノ一大事變ナリ社會ノ事
ニ變アレバ社會ノ力モ亦其形ヲ變セザルヲ得ズ學問ノ趣ヲ變シ商賣
ノ趣ヲ變シ尙甚シキハ宗旨ノ趣ヲモ變セントスルノ萌アルニ至レリ
何レモ皆力ノ變形ニアラザルハナシ然リ而シテ此變形ノ最モ活潑ニ
シテ最モ迅速ナリシ者ハ政治ノ變革即是ナリ二百五十餘年ノ太平ヲ
持續シテ確乎不拔ト稱シタル徳川ノ政府ヲ一朝ニ倒シ三百諸侯ノ痕
跡ヲモ絶タルハ變革ノ活潑ニシテ迅速ナルモノト云フ可シ蓋シ其由
縁ハ何ソヤ商賣ノ如キハ變化ノ及フ所洪大ナルモ其性質、肉體ニ屬ス
ルモノニシテ必竟三民ノ關スル所ナレバ其變化ノ際ニ激動少シト雖
モ政治ハ士族ノ常ニ自カラ任スル所ニシテ其士族ノ働ノ強大ナルハ
固ヨリ三民ノ比ニ非ズ此強大ナル勢力ヲ以テ一時ニ變革ノ事ヲ舉グ
ルモノナレバ功ヲ奏スルノ活潑迅速ナルモ亦謂レナキニ非ザルナリ

政治ノ變革ハ士族ノ力ニ關テシテ固ヨリ變ヲ容ル可ク大膽ニシテ此力
ハ嘉永以來俄ニ生シタルモノ歟云ク否決シテ然ラズ嘉永ノ開國ハ事
變ナリ力ハ一旦ノ事變ニ由テ生ス育キモノニ非ズ唯ヨレニ由テ形ヲ
變ス可キノミ然ハ則チ彼ノ政治ノ變革ハ士族ノ力ニ出テシト云フト
雖モ實ハ新ニ力ヲ始造セシニ非ズ唯舊來固有ノ力ノ變形ニ由テ致シ
タルモノト云ハザルヲ得ズ即チ前ニ記シタル忠義討死文武ノ嗜武士
ノ心掛ナク云ヘル士族固有ノ氣力ヲ變シテ其趣ヲ改メ此度ハ更ニ文
明開化進歩改進黨ノ箇條ヲ掲ケテ其力ヲ此一方ニ集メ文明ノ向フ所
天下ニ敵ナキガ如ク以テ今日ノ有様ニ至リシモノナリ固ヨリ其文明
果シテ眞ノ文明ナルヤ否甚タ疑フ可キモノ多シト雖モ舊ヲ棄テ、新
ニ向フノ勢ハ頗ル盛ナリト云フ可シ記者ハ唯世間ノ通用ニ從テ爰ニ
文明ノ字ヲ用ヒタルノミ

新ノ如ク士族ノ力ノ變形ニ由テ政治ノ變革ヲ致シヨリト雖モ士族全

嘉永ノ末年ニ外交ヲ開キシハ我國開闢以來ノ一大事變ナリ社會ノ事
ニ變アレバ社會ノ力モ亦其形ヲ變セザルヲ得ズ學問ノ趣ヲ變シ商賣
ノ趣ヲ變シ尙甚シキハ宗旨ノ趣ヲモ變セントスルノ萌アルニ至レリ
何レモ皆力ノ變形ニアラザルハナシ然リ而シテ此變形ノ最モ活潑ニ
シテ最モ迅速ナリシ者ハ政治ノ變革即是ナリ二百五十餘年ノ太平ヲ
持續シテ確乎不拔ト稱シタル徳川ノ政府ヲ一朝ニ倒シ三百諸侯ノ痕
跡ヲモ絶タルハ變革ノ活潑ニシテ迅速ナルモノト云フ可シ蓋シ其由
縁ハ何ソヤ商賣ノ如キハ變化ノ及フ所洪大ナルモ其性質、肉體ニ屬ス
ルモノニシテ必竟三民ノ關スル所ナレバ其變化ノ際ニ激動少シト雖
モ政治ハ士族ノ常ニ自カラ任スル所ニシテ其士族ノ働ノ強大ナルハ
固ヨリ三民ノ比ニ非ズ此強大ナル勢力ヲ以テ一時ニ變革ノ事ヲ舉グ
ルモノナレバ功ヲ奏スルノ活潑迅速ナルモ亦謂レナキニ非ザルナリ

政治ノ變革ハ士族ノ力ニ出テシテ固ヨリ變テ容ル可ラズ而シテ此力
ハ嘉永以來俄ニ生シタルモノ歟云ク否決シテ然ラズ嘉永ノ開國ハ事
變ナリ力ハ一旦ノ事變ニ由テ生ス可キモノニ非ズ唯コレニ由テ形ヲ
變ス可キノミ然ハ則チ彼ノ政治ノ變革ハ士族ノ力ニ出テシト云フト
雖モ實ハ新ニ力ヲ始造セシニ非ズ唯舊來固有ノ力ノ變形ニ由テ致シ
タルモノト云ハザルヲ得ズ即チ前ニ記シタル忠義討死、文武ノ嗜武士
ノ心掛ナク云ヘル士族固有ノ氣力ヲ變シテ其趣ヲ改メ此度ハ更ニ文
明開化進歩改進黨ノ箇條ヲ掲ケテ其力ヲ此一方ニ集メ文明ノ向フ所
天下ニ敵ナキガ如ク以テ今日ノ有様ニ至リシモノナリ固ヨリ其文明
果シテ眞ノ文明ナルヤ否甚タ疑フ可キモノ多シト雖モ舊ヲ棄テ、新
ニ向フノ勢ハ頗ル盛ナリト云フ可シ記者ハ唯世間ノ通用ニ從テ爰ニ
文明ノ字ヲ用ヒタルノミ

斯ノ如ク士族ノ力ノ變形ニ由テ政治ノ變革ヲ致シタリト雖モ士族全

田舎ニテ
正シク新
曆ヲ奉シ
一月ニ西
洋風ノ門
松ヲ立テ
又ハ式日
ニ必ス旭
旗ヲ揚ル
等今ノ風
俗ニ從テ
得意ナル
者ハ多ク
ハ書肆西
洋料理唐
物店等維
新以來新
テ開業シ
處ヲ得

十
体ノ力ナリ一時ニ變シテ各其力ヲ逞フス可キ地位ヲ得タルニ非ズ之ヲ
區別シテ三類ニ分ツ可シ

第一類 舊政府ヲ倒シテ新政府ヲ作り所謂文明開化ヲ唱ヘテ政府ニ
地位ヲ占ル者或ハ直ニ政府ニ關セザルモ私ニ職業ヲ得テ其力ヲ逞フ
ス可キ者はナリ地位ヲ得テ力ヲ用ヒントスルニハ天下ノ事物ヲシテ
順序アラシムルヲ最モ緊要ナレハ此類ノ人ハ常ニ事物ノ順序ヲ重シ
シテ世間ノ太平無事ヲ謀ルハ固ヨリ論ヲ俟タズ且兵馬忽卒ノ際ニハ
或ハ活潑果斷ノ舉動ヲ以テ人ノ耳目ヲ驚スヲモアリシト雖モ次第ニ
歲月ヲ經ルニ從テ前後ヲ顧慮スレバ活潑果斷モ再舉ス可ラザルモノ
多シ故ニ自カラ稱シテ鄭重ト名ル事モ遠方ヨリ之ヲ傍觀シテ因循ト
スルモノナキニ非ズ

第二類 力ノ形ヲ變シテ既ニ文明開化ノ域ニ入タリト雖モ其域中ニ

ナルモノ
ナリ人生
其處ヲ得
レバ得々
安心ス可

於テ力ヲ逞フスルノ地位ヲ得ザル者或ハ一度コレヲ得テ更ニ失ヒシ
者即チ官ヲ求メテ官ヲ得ザル者既ニ官ニ就テ免シタル者又ハ新規ノ
商業等ヲ企テントシテ機會ヲ得ザル者既ニ其業ニ就テ失策シタル者
或ハ私ノ業ニハ成功ヲ得テ満足スルニ足ルト雖モ公事ニ關スルノ心
ニ満足ヲ得ザル者等はナリ此類ノ人ハ己ガ決斷ヲ以テ文明ノ域ニ入
リ他ノ魁ヲ爲シテ志ヲ立タル者ナレバ心ニ慊クシテ耻ル所ナシト雖
モ其志ヲ達ス可キ地位ナキガ爲ニ又一方ニ不滿ナキヲ得ズ或ハ之ヲ
評シテ精神ニ慊クシテ身ニ快カラザル者ト云ハシ歎又ハ一心ニ満足
シテ一心ニ満足セザル者ト云フモ可ナリ之ヲ今日ノ民權家ト稱ス此
民權家ノ中ニハ學者モアリ論客モアリ廣ク世間ノ人望ヲ収テ其勢決
シテ微弱ナラズ極テ下流ノ輩ヲ舉レバ早ク家祿ヲ奉還シテ失策シタ
ル者モ此類ニ入ル可シ民權論者ハ實地ニ關係ナクシテ事物ヲ傍觀ス

ルガ故ニ其議論常ニ簡易ニシテ正直ナリ簡易正直ノ論ハヨク天下ノ人心ヲ動カスニ足ル可シ其趣ハ徳川ノ末年ニ尊王攘夷ノ一説ヲ以テ世間ヲ動搖セシメタルガ如シ今ノ民權論ノ有力ナルモ亦謂レナキニ非ザルナリ

第三類 士族固有ノ氣力ヲ持續シテ其形ヲ變セザル者即チ古風舊格ヲ守テ變動ヲ好マズ維新ノ一舉以テ政府ノ名ヲ改タルハ敢テ不平ニ非ザレト日本ニ固有スル政治ノ体裁ヲバ永ク之ヲ保存セント欲スル士族ナリ此類ノ人ハ變形ノ機ニ後ル、程ノ者ナレバ一般ニ穎敏ノ才智少ナシト雖モ決シテ無氣無力ノ名ヲ下ラス可ラズ且其人員モ士族ノ七八ニ居ルガ故ニ一方ヨリ見テ其精粕ノミヲ計フレバ取ルニ足ラサル者多クレト往々有力ナル人物アリテ其品行賤シカラス殊ニ脩身ノ私徳ニ至テハ人ヲシテ感服セシムルモノ多シ人事ノ法則ニ於テ無

道徳ニ富
テ智ト錢
トニ實ナ
リ

智ノ腕力ハ必ス私徳ノアル所ニ歸スルヲ常トス故ニ此仲間ハ假令ヒ穎敏ノ智力ニ實ナルモ腕力ニハ餘アリテ自カラ一種ノ強勢ヲ有セリ或ハ是等ノ人物モ其心事ヲ改メテ開明進取ノ路ニ入ルノ便ヲ知ラザルニ非ザレト未タ好機會ヲ得ズ或ハ偶々機會ヲ得トスルモ之ヲ誤テ必事意ノ如クナラズ既ニ不平ノ心ヲ抱テ世間ヲ見レバ其事物一トシテ満足ス可キモノナシ殊ニ其舊同士族タル第一類第二類ノ舉動ヲ見レバ其欠典甚タ少ナカラズ此事モ斯ナル可ラズ彼事モ然ル可ラズトテ憤モ其短ヲ見テ其長ヲ見ズ違ニ益相反シテ相近ク可ラザルノ勢ヲ成セリ

日本國中ノ政治家タル四十万ノ士族ガ所見ヲ異ニシテ黨類ヲ分ツテ前條ノ如ク即チ第一第二類ヲ改進黨ノ黨ト爲シ第三類ヲ守舊ノ黨ト爲ス固ヨリ他ノ三民モ開明ニ政治ニ關シテ本源ノ力アルハ無論ナレト

實ニ之ヲ談シテ之ヲ嚮要スルハ其本色ニ非ズ日本ノ農工商ハ未ダ國
事ノ味ヲ嘗メザル者ナリ故ニ此國ニ行ハル、治亂ノ近因ハ士族ノ舉
動ヨフリト云ハザルヲ得ズ維新以來今日ニ至ルマデ毫モ其趣ヲ變ス
ルイナク改進黨者流ト守舊者流ト正シク相反對シテ治ハ則チ互ニ不平
ヲ抱キ亂ハ則チ互ニ兵器ヲ取ルノ勢アリ政談ニ黨與ヲ分テ喋々スル
ハ固ヨリ十全ノ美事ニ非ザルモ之ニ由テ人民一般ノ發論ヲ活潑ニ導
キ眼力ヲ鋭シテ他ノ舉動ヲ察シ過大過強ノ權力ヲ制シテ之ヲ平均
スル等ノ好機會タルコトナキニ非ズト雖ヒ兩黨相對シテ陰ニ不平ヲ抱
キ其不平ヲ漏ラスノ路ヲ容易ニ兵器ニ取ルガ如キハ國ノ爲メ謀テ政
黨ノ益ヲ得ズシテ唯其弊害ノミヲ蒙ルモノト云フ可シ

維新以來內國兵亂ノ著シキモノハ長州奇兵隊ノ亂ナリ次テ佐賀ノ亂
ナリ又本年熊本及ヒ萩ノ亂ナリ奇兵隊ト佐賀トハ既ニ兵力ヲ以テ鎮

定ニ歸シタリ本年ノ事モ亦必ス同様ナラン世ノ論者之ヲ評シテ云ク
頑陋ナル士族、變通ノ路ヲ知ラズ輕舉暴動以テ國安ヲ害ス其愚ハ笑フ
可シ其暴ハ惡ム可シ幸ニシテ政府、事ノ機ヲ誤ラズ忽地ニ賊徒ヲ殲滅
シタルハ天下ノ爲ニ祝ス可シト又或ハ云ク雨降テ地カタマル草賊ノ
蜂起スルハ煩ハシト雖ヒ隨テ起レバ隨テ之ヲ拂ヒ一回又一回却テ次
第ニ政府ノ基礎ヲ固クシテ文明ノ政令ヲ施スノ好機會タル可シトテ
其議論ノ首尾結末甚タ簡易ニシテ且明白ナルガ如クナレヒ余輩ノ考
ニハ此論者ノ言ヲ以テヨク事ノ情實ヲ盡シタル者ト認ルヲ得ズ苟モ
一國ニ政府ヲ立テ、其政府ノ法ニ背ク者アレバ即チ賊ナリ國賊ハ兵
力ヲ以テ之ヲ殲滅セザル可ラズ固ヨリ政治ノ順道ニシテ評論ヲ要セ
ザルモノナリ然リト雖ヒ國ノ良民ガ賊ニ變スルノ機ハ一瞬ノ間ニ存
スルモノニシテ如何ナル人民ガ如何ナル不長不平ノ心ヲ抱クモ之ヲ

外形ニ顯サバノ間ハ政府ノ目ヲ以テ之ヲ其民ト認メザルヲ得ズ此
 其民ガ其心事ヲ内ニ包藏スルヲ能ハズシテ一旦ノ機ニ事ヲ發スレバ
 其コレヲ發シタル瞬間ヨリ之ヲ賊ト稱シ政法ニ於テ許ス可ラズ故ニ
 賊ノ字ハ現ニ其時代ニ行ハルハ法律ニ對シタル言葉ナレト學者ノ議
 論ニ於テハ其賊ト爲ル所以ノ原因ト既ニ賊ト爲リテ誅セラレタル始
 末ト又將來コノ始末ヨリシテ生ス可キ事ノ有様ヲ察セザル可ラズ然
 ルニ彼ノ論者ハ兵亂ノ事ヲ評論スルニ正シク其亂ノ外形ニ發シタル
 其日ヨリ亂賊ノ斃シタル其日マテノ始末ニ眼ヲ着シテ前後ノ原因ト
 成リ行キトニ就テハ特ニ注意セザル者ノ如シ之ヲ譬ヘバ風邪ニ感シ
 ナ發汗劑ヲ服シ之ニ由テ直ニ全快シタリ或ハ再感スルヲアラハ煩ハ
 シト雖モ復タ發汗劑ヲ用ヒシノミト云フニ異ナラズ全ク人身ノ働キ
 知ラザル者ノ言ナリ苟モ養生ノ法ヲ心得タル者ナラハ仮令ヒ些少ノ

風邪ニテモ前後ニ注意シテ之ヲ等閑ニスルヲナカル可シ是即チ余輩
 ガ論者ノ言ヲ以テ事ノ情實ヲ盡サバノトスル所以ナリ

余輩ガ所見ヲ以テ先ツ事ノ原因ヲ論セシ前ニ云ヘル如ク我國四十万
 ノ士族ハ國事ニ關シテ國ヲ維持シタル者ナリ而シテ其之ヲ維持スル
 所以ノ元素ヲ尋ルニ商賣ニモ非ズ工業ニモ非ズ又宗教學問ニモ非ズ
 唯忠義武勇ノ一元氣アルノミ古來日本ノ士族ヲ見ルニ神佛ヲ信セズ
 學問ヲ勤メズ商工ノ事ヲ賤シシテ之ヲ知ラザルモ忠義武勇ノ心掛
 アル者ハ士族第一流ノ名望ヲ得ベシ或ハ士族ノ中ニモ大ニ學問ニ志
 ス者少ナカラズト雖モ其學問ナル者モ亦唯忠義武勇中ノ一箇條ニシ
 テ之ヲ助クルノ方便タルニ過キザルノミ故ニ日本ハ恰モ義武ニ由テ
 國ヲ立ルモノニシテ之ト共ニ國ノ存亡ヲ與ニスルハ古ヨリ義國武國
 等ノ名稱アルヲ以テ知ル可シ然ルニ開國以來商工ノ趣ヲ變シ學問ノ

西洋耶蘇
 教ノ流儀
 ニ從ヘバ
 信心ナキ
 者ハ人非
 入ノ如ク
 ニ論スレ
 日本ハ
 然ラズ古
 來學者ト
 稱スル者
 ハ神佛ヲ
 信セザル
 ノミナラ
 ズ其コレ

ヲ信セザルヲ愈々其人物ノ高尚ナルヲ表スルニ足ルモ西洋人ノ知ラザルナリ

風ヲ革メ之ヲ變革シテ兼テ其權力ヲ増加シ又昔日ノ義武ノミヲ以テ國ヲ立ルヲ能ハザルノ勢ト爲レリ是ニ於テカ改進者流ノ第一類第二類ハ早ク既ニ舊套ヲ脱却シテ此勢ト共ニ運動スト雖第三類守舊家ノ眼ヲ以テ之ヲ視レバ全國ヲ舉ケテ己ガ立國ノ元素ト思ヒシ忠義武勇ノ在ル所ヲ見ズ義武ノ所在ヲ見ザルハ即チ國ノ所在ヲ見ザルモノナレバ國ヲ失フノ思ヲ爲サザルヲ得ズ之ヲ譬ヘバ黒キ衣裳ヲ見印ニシテ何某ト認メシモノガ俄ニ其黒衣ヲ脱シタルガ爲ニ當人ノ所在ヲ見失ヒシニ異ナラズ故ニ守舊者流ハ日本人ニシテ日本國ヲ見失ヒ舊ノ黒衣ノ日本國ヲ求メテ其所在ヲ得ザル者ナリ又彼ノ改進者流モ舊套ヲ脱シタルニ未タ定メテ新套ヲ着ケズ脱シタルガ如ク着ケタルガ如ク朝ニ白衣ニシテ夕ニ黒衣、黒キガ如ク又白キガ如ク恰モ黑白ノ雜套ニシテ明ニ他ノ標的トスルニ足ラズ概シテ云ヘバ改進者流ハ舊日

本ノ棄ツ可キヲ知テ之ヲ棄テ明ニ之ヲ棄ルニ果斷ナリシカニ未タ斷日本ノ所在ヲ見出サザル者ナリ

守舊者流ハ舊ヲ求メテ舊ヲ得ズ改新者流ハ新ヲ求メテ新ヲ得ズ等シク物ノ所在ヲ得ザル者ナレバ其求ル所ノ物ノ種類ヲ異ニスルガ故ニ相互ニ心事ヲ異ニセザルヲ得ズ尙甚シキハ雙方共ニ物ヲ見ザルヲ以テ其物ノ所在ヲ他ニ求メ恰モ他ノ一方ノ爲ニ我物ヲ匿サレタルガ如キ思ヲ爲シテ益相互ニ疑心ヲ抱キ益相互ニ敵視スルノ勢ヲ成セリ世ノ論者ハ守舊者流ノ時勢ニ從ハザルヲ見テ單ニ之ヲ奇トシテ怪シムガ如クナレバ余輩ノ所見ニテハ之ヲ人事必然ノ勢ト認メザルヲ得ズ古來日本ノ國事ニ關シテ政治家ヲ以テ自カラ居ル士族ガ固ヨリ誤解ナリトハ雖モ國ヲ失フノ思ヲ爲シテ默止スルノ理アラシヤ假ニ今亞米利加ノ合衆國ニ政体ノ大變革ヲ催シ其憲法ヲ佛蘭西ノ如クセント

大ノノ議ヲ發シテ其發議事實亞國ノ便利タル可キ道理アルモ其人民
 ニシテ之ヲ默止ス可キヤ余輩斷シテ其然ラザルヲ證ス然ハ則チ亞國
 ノ人民ガ國事ニ關スルノ心ニ等シキ日本士族ノ心ニシテ國事ノ變革
 ナ傍觀シテ吳越ノ事ノ如クスルハ万々能ハザル所ナリ故ニ新舊二流
 敵對ノ原因ハ士族ノ働ノ變形シタルモノト未タ變形セザルモノト互
 ニ相接スルノ激動ニシテ其勢ハ西ニ走ル車ヲ以テ東ニ走ル車ニ接ス
 ルガ如シ之ヲ事ノ遠因トスハ過激ノ徒ト稱スル者ガ折衝事ヲ舉ルモ
 同小異何々ガ何々シテ神州ナ穢ス如クナル國ナ賈ルモアリ其趣意
 民チ塗炭ニ救フト云フテ神州ナ穢ス如クナル國ナ賈ルモアリ其趣意
 ナ伸ベント欲スルナ云フテ神州ナ穢ス如クナル國ナ賈ルモアリ其趣意
 テ激徒ノ心事ナ察スルナ云フテ神州ナ穢ス如クナル國ナ賈ルモアリ其趣意
 ノ思ヲ爲スハ何々ナ伸ベント欲スルナ云フテ神州ナ穢ス如クナル國ナ賈ルモアリ其趣意
 人民タルノ權利ナ伸ベント欲スルナ云フテ神州ナ穢ス如クナル國ナ賈ルモアリ其趣意
 平人タルノ權利ナ伸ベント欲スルナ云フテ神州ナ穢ス如クナル國ナ賈ルモアリ其趣意
 他ノ世話ニ忙シク今ノ政府取リナリ世話ノ仕方ハ宜シカラズ此筆法ト云
 代テ所謂政黨ノ益ヲ得ズシテ唯其害ノミチ蒙ルトハ此事ナリ
 遠因ノミニテハ容易ニ事ヲ發ス可キモノニ非ズ其コレヲ發スルニハ
 必ス幾多ノ近因ナカル可ラズ之ヲ枚舉スレバ

第一 維新以來士族ハ利祿ヲ失ヒ他ニ活計ノ方法ナシ窮シテ亂チ思
 フハ人事ノ常則ナリ

第二 活計ノ困窮ハ尙恐フ可シト雖モ他ニ忍フ可ラザルノ事情ハ士
 族ノ面目ヲ失シタルノ一事ナリ士族ハ國事ニ關シテ文武ノ政治ヲ專
 ニシ他ノ三民ニ對シテハ恰モ國ノ主人ノ如キ体面ナリシモノチ俄ニ
 其權柄ヲ奪ヒ軍役ハ常備ノ兵隊ニ讓リ、人才アレバ四民ノ別ヲ問ハズ
 シテ官ニ用ルノ風ト爲リ士族固有ノ特權ハ地ヲ拂テ殘ス所ナシ譬ヘ
 ハ爰ニ年來定式ニ仕事ヲ命スル大工左官ノ如キ職人アラシ此職人ノ
 技術ニ巧拙ノ變ナキ者チ俄ニ擯斥シテ其出入ヲ差止ルコアラバ職人
 ハ必スシモ利益ノ爲ノミナラズ其体面ヲ失フガ爲ニ主人チ怨望セザ

ルヲ得ズ職人ニシテ尙且然リ況ヤ士族ヲヤ利ヲ失フノ若ハ身ニアリ
 孤目ヲ失フノ苦ハ心ニアリ心ノ苦ハ身ノ苦ヨリ大ナラザルヲ得ズ
 第三 商賈ノ形ヲ變スルハ町人モ難クソズル所ナリ況ヤ祖先以來貴
 スヲ知テ働クヲ知ラザル士族ガ俄ニ農商ニ移ル可ラザルハ論ヲ俟タ
 ズ其身ニ恰モ適スル生活ノ方ハ唯官員タルノ一路アルノミ然ルニ官
 途ハ既ニ充滿シテ之ニ近ツク可ラズ不平ノ心ヲ生セザルヲ得ズ
 第四 己ヲ責メズシテ人ニ求ルハ中人以下ノ性情ナリ士族ノ品行賤
 シカラズト云フト雖モ學者ノ理論ヲ以テ之ヲ評スレバ中人以下ノ凡
 庸ニシテ他ヲ羨ムノ念ヲ脱スルコト能ハザルハ固ヨリ論ヲ俟タズ然ル
 ニ此士族ガ官員ノ世界ヲ見レバ大廈高樓ヲ居ト爲シ金衣玉食ヲ常ト
 シ盛饌一席ノ冗費以テ貧士族一年ノ衣食ニ給ス可キモノアリ以下ノ
 小吏小官ト雖モ苟モ官員ノ列ニ在ル者ハ其給料ノ饒ナルコト他三民ノ

世界ニ異ナリ顧テ其人物ヲ察スレバ必スシモ多才多能ノ人ノミニ非
 ズシテ等シク舊士族ノ同類ナレバ目下ノ有様ヲ見テ之ヲ羨マザルヲ
 得ズ昔日門閥ノ世ニ三千石ノ大臣ト十俵ノ足輕ト其有様ノ懸隔セシ
 ハ之ヲ天然トシテ怪シマザリシカモ今ハ則チ然ラズ不平士族ノ心ニ
 隨ラク今日ハ既ニ門閥ヲ廢シタリ古ノ由緒ヲ問ハザルノ日ナリ門閥
 田緒ヲ問ハザレバ正シク人々ノ才德ニ相應シテ地位ヲ得ヘキ筈ナリ
 大藏ノ官員ハ悉皆數學者タル可キ筈ナリ海軍ノ士官ハ悉皆航海者タ
 ル可キ筈ナリ十五等級ノ官位ハ必ス十五品位ノ人物ニ配當シテ一毫
 ノ差アル可ラザル筈ナリ然ルニ事實ニ於テハ往々之ニ反シ、ヨク馬ニ
 乘ルモノニシテ海軍士官タル者アリ、武術ノ達人ニシテ地方官タル者
 アリ、會計ノ官員必スシモ數ニ明ナラス、授産ノ役人自カラ産ヲ破ル者
 ナキニ非ズ、斯ル有様ナレバ我輩ト雖モ豈政府ニ地位ナキコトアラシヤ

必竟其地位ヲ得ルト得ザルトハ偶然ノ幸不幸ノミトテ其議論切迫ニシテ些少ノ餘地ヲモ遣スナク只管他ノ不公平ヲ責メテ心中常ニ快々タリ

明治七年
日本國中
ニ人力車
ノ數八萬
四千六百
八十九輛

第五 郵便ノ便利ト著書新聞紙ノ出版トニ由テ田舎ノ士族ガ東京ノ事情ヲ知ルヲ甚タ速ニシテ且廣シ尙コレヨリモ有力ナルハ海ノ蒸氣船ト陸ノ人力車ナリ此船車ニ由テ往來ノ便利ヲ増シタルハ古來未嘗有ノ大事件ニシテ日本國中ノ人民ガ東京ニ出入スルノ數ハ前年ニ幾倍ナル可シ農工商ノ輩ハ唯東京ノ繁華ヲ見テ之ニ驚キ伊勢參宮ノ觀ヲ爲スノミナレトモ生來ノ習慣ニ於テ國事ヲ心頭ニ掛ル士族ノ眼ヲ以テ之ヲ見レバ其感スル所自カラ伊勢參宮ノ輩ニ異ナリ東京ノ繁昌ヲ以テ直ニ之ヲ田舎ノ疲弊ニ比較シ先ツ都下ノ各處ニ屹立スル西洋造ノ大廈高樓ヲ望ミ壯麗ナル馬車ノ往來ヲ見レバ其主人ノ誰何ヲ問ハ

ズ概シテ之ヲ分ニ過ギタルモノトシテ憤ル者アリ或ハ偶然ニ富豪貴顯ノ某氏ニ面謁ヲ請ハントシテ其門ニ至リ私ニ取次ノ者ニ主人ノ履歷ヲ聞ケバ豈計ランヤ主人ハ同郷ノ一書生ニシテ然モ前年其寒貧ノ時ニハ多少ノ財ヲ投シテ助力モシモアル者ナリ前年ノ寒貧今日ノ富貴、嘗ニ之ニ驚クノミナラズ凡庸ノ心トシテ其底ニ一點ノ嫉妬ナキヲ得ズ又稀ニハ少シク眼力ノ遠クシテ考ノ密ナル者モナキニ非ズ此輩ハ私ノ界ヲ去テ直ニ政府ノ會計上ニ注意シ外債ノ高ヲ聞テ憂ヒ紙幣公債ノ多キヲ聞テ驚キ顧テ諸官省ヲ見レバ官員ノ衆多ナルト定額ノ莫太ナルトニ驚キ就中一目ノ下直ニ田舎魂ヲ破ルモノハ十年以來府下ノ建築造營是ナリ某ノ建築ニハ五十万ヲ費シ某ノ造營ニハ三十万ヲ費シ此處ニハ十万ト云ヒ彼處ニハ五万ト云ヒ殆ト其數ヲ知ル可ラズ是ニ於テカ竊ニ胸中ニ算ヲ立テ、謂テク十年來府下ノ造營ニ金

ナ費シタルハ幾巨万圓ノ高ナラン我等ノ考ニ西洋造ハ全ク無用ナリ
 火災ノ預防ハ従前ノ土藏造ニテ澤山ナリ土藏造ナレバ外國ノ品ヲ用
 ルニ及ハズ外人ヲ雇フニ及ハズ有合ノ日本品ト日本ノ職人ヲ用ヒテ
 毫モ差支アルヲナシ若シ止ムヲ得ザルノ要用アラハ其要用ナルモノ
 ノミヲ素朴ノ洋風ニ造リ其他ハ役所ニテモ學校ニテモ又住家ニテモ
 道路橋梁門牆マデモ悉皆日本流ノ手堅キ法ニテ普請シタルヲナラバ
 少ナクモ幾巨万ノ三分ノ二ハ省零ス可シ此三分ノ二アレバ外債ヲ募
 テ外國ニ金ノ利足ヲ投棄スルニモ及ハザルヲナリ我等ヲシテ政府ノ
 地位ニ在ラシメナハ此事ハ斯ノ如クシテ彼事ハ云々スル筈ナリトテ
 局外ノ身ヲ以テ局内ノ事ヲ謀リ之ヲ一人ニ話シ又コレヲ十人ニ傳ヘ
 竊ニ隔靴ノ歎ヲ爲ス者少ナカラズ若シ二十年以前ニ在テ諸藩士ハ國
 邑ニ居テ動クヲナク飛脚ノ報知ハ稀ニシテ海陸ノ往來艱難ナル時代

ニ徳川政府ニテ何様ニ演御殿ヲ建築シ芝上野ヲ營繕シ或ハ幾万兩ノ
 拜借金ヲ下ゲテ江戸ノ市中ヲ飾リ其新築ヲ營ムモ田舎ノ士族ハ恬ト
 シテ之ヲ意ニ關スル者ナカル可シ今其然ラザルハ固ヨリ政治變革ノ
 致ス所トハ雖ヒ内國ノ往來通報ノ便利ト著書新聞紙ノ出版モ亦與テ
 大ニ力アリト云ハザルヲ得ズ

第六 田舎ノ風ハ質朴ニシテ都會ノ風ハ華美ナリ道德ハ質朴ノ中ニ
 存シテ淫風ハ華美ニ伴フヲ固ヨリ必然ノ勢ナリ今守舊ノ士族ハ大概
 田舎ニ住居シテ質朴ノ古風ヲ失ハズ改進者流ハ常ニ都會ニ住居スル
 歟若シハ屢都會ニ往來シテ自カラ華美ノ風ニ移リ往々醜行ノ譏ヲ
 免カレザル者多シ固ヨリ在昔大名旗本ノ時代ニモ其淫風ノ盛ナルハ
 今日ニ劣ラズト雖ヒ舊ノ淫風ハ内ニ行ハレテ且其際ニ自カラ鄭重ナ
 レ趣ヲ存シ一種ノ御殿風ヲ成シテ人ノ目ニ見苦シカラズ譬ヘハ歌舞

宴樂内ニ自在ナリト雖ヒ市中ノ芝居ヲ見物スルヲ得ズ、奥向ノ淫醜名
 狀スルニ忍ヒザルモノアリト雖ヒ御錠口ハ以テ内外ノ境界ヲ嚴ニシ
 テ其醜聲嘗テ外聞スルヲナシ或ハ妾ヲ買フヒニモ實ハ主人ノ熱慾ニ
 出ルト雖ヒ奥様ヨリ進セラル、ノ儀式ヲ用ヒ、或ハ嬖妾跋扈スト雖ヒ
 譜代ノ士族ハ之ヲ下婢視シテ恐レズ主人モ亦表向ニ之ヲ咎ルヲ能ハ
 ザルガ如キハ何レニモ淫風ノ上品ニシテ鄭重ナルモノト云フ可シ今
 ヤ則チ然ラズ所謂自由論ノ流行ヨリ以來歷々ノ士君子ガ主トシテ閨
 門ノ自由ヲ致シ活潑ノ働チ宴樂ニ用ヒ敢爲ノ力ヲ遊興ニ盡シ内ノ淫
 風ヲ外ニ發露シテ之ヲ制スルモノナキガ如シ凡ソ妓樓酒店ノ繁昌シ
 テ妾ヲ娼シ妓ヲ買フノ容易ニシテ且公然タルハ徳川ノ末年ヨリ特ニ
 今ノ時ヲ以テ最トス固ヨリ今ト昔ト不行狀ノ實ハ同シト雖ヒ之ヲ内
 ニスルト外ニスルトノ体裁ノミニ由テ世間ノ耳目ニ觸レテ人心ニ感

スル所ハ甚シキ相違アルモノナリ蓋シ當局ノ者ハ自カラ此舉動ヲ目
 シテ羈落ト稱シ又簡易ト名ルナント雖ヒ到底無益ノ通辭タル可キ
 ノミ何如ナル英雄如何ナル學者ガ如何ナル簡易羈落ノ舉動ヲ以テ大
 丈夫ノ事ヲ行フト雖ヒ其際ニ秋毫モ淫褻ノ元素ヲ加レハ忽チ獸行ノ
 譏ヲ免ルカ可ラズ道德家ノ常ニ注意シテ他人ノ品行上ニ切込マント
 スルノ點ニシテ英雄學者ノ身ニ取テハ恰モ最弱ノ急所ト名ク可キモ
 ノナリ今改進者流ニハ此急所ノ弱點ヲ帶ル者少ナカラズ守舊家ノ常
 ニ窺フ所ナリ

第七 兵亂ノ近因中ニ最モ近クシテ最モ有力ナルモノハ前ニ云ヘル
 第二類民權家ノ教唆是ナリ爰ニ教唆ノ字ヲ用ルハ少シ當ラザルガ
 如クナルヲ以テ先ツ其字義ヲ解カン余輩ガ所謂教唆トハ直ニ人ヲ煽
 動シテ亂ヲ爲セヨト勸メ立ツルヲ云フニ非ズ暗ニ其後口楯トナルヲ

云フナリ、又其後口桶トテ明ニ此桶ヲ貸スト云フニ非ズ知ラズシテ偶然ノ後口桶ニ爲ルヲナリ之ヲ譬ヘバ暗夜ニ無提灯ノ旅人が偶然ニ他ノ提灯ノ光ニ出逢ヒ其光ヲ借ルトモ云ハズ又貸ストモ云ハズ雙方無言ノ際ニ提灯ノ主人ハ毫モ知ラズシテ旅客ノ歩行ヲ助ルガ如シ主人ハ決シテ旅客ヲ教唆シタルニ非ザレバ偶然ニ其後口桶トナリテ客ノ歩行ヲ見レバ恰モ主人ノ教唆ヲ受ケタルニ異ナラズ民權家ノ教唆トハ此類ヲ云フナリ維新以來亂ヲ企テ亂ヲ起ス者ノ趣意ヲ聞ケバ或ハ尊王攘夷ト云ヒ或ハ朝鮮征伐ト云ヒ或ハ封建恢復ト云ヒ或ハ君側ノ惡ヲ除クト云ヒ或ハ夢ヲ見タル者モアラシ、或ハ神託ヲ聞タル者モアラシ其口實ハ様々ナレバ次第ニ情實ヲ吟味スレバ眞ノ原因ハ大畧前條ニ舉ゲタルモノヨリ外ナラズ然リ而シテ此遠因ト近因トヲ備ヘテ直ニ破裂セザルハ何ゾヤ蓋シ如何ナル無分別ノ頑士族ニテモ事ヲ舉

ルニハ必ス先ツ世上ノ景氣ヲ察セザル可ラザルガ故ナリ此景氣トバ即チ學者ノ所謂輿論公議ナルモノナリ維新ノ初ハ僅ニ舊ヲ破ルノ事ヲ終テ未タ新ヲ定ルノ場合ニ至ラザレバ朝野共ニ其說難駁ニシテ歸スル所チ一ニセズ恰モ世ノ中ニ公議モナク輿論モナク唯日本ニ一個ノ新政府ヲ出現シテ其政府ハ改進ノ說ナルガ如キヲ見ルノミ故ニ彼ノ無分別者モ茫然トシテ爲ス所ヲ知ラス手ヲ拱シテ他ヲ傍觀スルノ有様ナリシガ廢藩置縣ノ頃ヨリ政府ノ方向モ略定リタルニ付テハ守舊士族ハ愈コレヲ悦バズト雖モ如何モ其頃ニ至テハ改進ノ說漸ク天下ニ普チクシテ守舊ノ黨ハ恰モ其輿論ニ壓倒セラレテ自家ノ力ヲ逞フスルヲ得ズ且守舊者ハ初ヨリ未タ嘗テ其働ノ形ヲ變シタルヲナキガ故ニ唯己ガ一方ヲ知ルノミニシテ他ヲ知ルニ由ナシ改進者ハ其初ヲ尋レバ必ス守舊ノ中ヨリ變形シテ出タル者ナレハ現ニ舊新二度

ノ試験ヲ經テ自他双方ノ得失ヲ明ニセリ甲ハ己ヲ知テ敵ヲ知ラザル者ナリ乙ハ己ヲ知リ兼テ又敵ヲ知ル者ナリ其強弱ノ相敵ス可ラザルハ論ヲ俟タス此勢ニ由リ守舊者モ說ヲ變シテ次第ニ改進ノ仲間ニ入レバ則チ其心事ヲ安ソス可シ若シ然ラザレバ生涯不平ヲ吞テ朽果ルノ一路アル可キノミ然ルニ爰ニ圖ラザル一ノ事情ヲ出現セリ即チ其事情トハ世態漸ク定テ事物ノ雜駁混亂シタルモノモ次第ニ緒ニ就クニ從テ改進者流ノ中ヨリ民權論者ナルモノヲ生シタルヲナリ此論者ハ前ニ云ヘル士族第二類ノ輩ニシテ其說固ヨリ守舊ト相反對シテ相容レザルヲ水火ノ如シト雖モ第一類ノ地位ヲ占メテ得意ナル者ヲ見レバ自カラ不平ナキヲ得ズ或ハ其不平ヲ公ニ唱ヘザルモ他ヲ見テ同情相憐ムノ念アリト云フ可ラズ固ヨリ此第一類第二類ハ改進ノ一點ニ集ル者ナリ若シ人ノ心ヲシテ至公至平ノモノニシテ且老練ノ覺悟

アラシメナバ斯ル苦々シキ關係ハナキ筈ナレモ人心ノ公平ト老練トハ今ノ世ニ求ム可ラズ互ニ相忌ミ互ニ相疑ヒ其成跡ハ遂ニ日本ニ一種ノ政敵ヲ生スルニ至レリ是ニ於テカ第三類ノ者ハ第二類ノ者ヲ見テ固ヨリ之ヲ己ガ同類ト認ルニ非ズ之ヲ敵視スルノ念ハ嘗テ消滅スルヲナシト雖モ第一類ニ向テ不平ヲ抱クノ點ハ同様ナルヲ以テ暗ニ之ヲ後口楯ニスルノ情アリ或ハ假令ヒ後口楯トスルニ足ラザルモ殊更ニ力ヲ盡シテ自家ノ企ヲ害スル者ニハ非ズトテ内心ニ之ヲ信仰スル其有様ハ前ニ云ヘル暗夜ノ旅客ガ提灯ニ出逢ヒ無言ノ際ニ其光ヲ借りナカラ竊ニ主人ノ心ヲ察シ此人ハ殊更ニ提灯ヲ消シテ我レヲ困却セシメ我が歩行ヲ妨ル者ニハ非ザルベシト獨リ心ニ之ヲ頼ムノ情ニ異ナラズ故ニ云ク兵亂ノ近因ハ民權論者間接ノ教唆ニ在リト

第八 田舎ノ士族ガ世間ノ景況ヲ知ルニハ新聞紙ヲ以テ最第一ノ方

便ト爲セリ東京ニ居ル者ハ現ニ見聞スル所モ繁多ナレハ必ズシモ新聞紙ノミニ依頼スルヲナシ之ヲ讀ムノ際ニ自カラ取捨アリト雖田舎ノ地方ニ於テハ心ヲ專一ニシテ之ヲ讀ミ訛傳誤報ヲモ信シテ疑フヲナシ且新聞記者ハ天下ノ公議輿論ヲ紙ニ記シテ世ニ分布スルノ大任ヲ擔フ者ナリトテ常ニ自カラ揚言スルガ故ニ又コノ言ヲ信シ新聞ノ論說ハ公議ナリ其投書ハ輿論ナリトテ一片ノ新聞紙ヲ以テ天下ノ形勢ヲトシ身ノ進退ヲ決スル者ナキニ非ズ故ニ新聞紙ハ東京ニ無力ニシテ田舎ニ有力ナリ東京ノ學者ハ新聞紙ヲ讀ム者ナリ田舎ノ學者ハ新聞紙ニ讀マル者ナリ然ルニ近來ノ新聞記者ハ往々政府ノ律令ニ觸ルヲ以テ罪ヲ得ル者多シ或ハ文章ノ一字一句ヲ糾セバ甚タ尋常ニシテ毫モ瑕瑾ノアル所ヲ見ズ何等ノ法ニ照ラスモ之ヲ罪ス可ラズト雖紙上全面ノ大趣意ヲ韻味シ字句ノ外ノ意味ヲ斟酌シテ之ヲ

視ルハ其筆法決シテ尋常ナラズ怨ムガ如ク訴ルガ如ク言ハント欲シテ言フ能ハザル者ノ如ク泣カント欲シテ發聲ヲ憚ル者ノ如クシテ却テ大ニ人心ヲ感動セシムル者多シ之ヲ譬ヘバ溫柔嬌艶ナル新婦ガ姑氏ノ心事ヲ知ラズシテ訴ルニ路ナク之ヲ言ハントスレバ或ハ其意ニ逆ハンヲ恐レ之ヲ言ハサレバ朝暮ノ心配ニ堪ヘズ進退爰ニ谷リテ獨リ幽室ニ默坐シ双眼ノ涙ハ袖ヲ濕シテ思案ノ底ニ沈ミ海棠首ヲ垂レテ空シク春雨ヲ怨ムノ狀ノ如シ如何ナル無情ノ木強人ト雖此有様ヲ見テ誰カ心ヲ悼マシメザル者アラシヤ即チ今ノ新聞記者ハ巧ニ此新婦ヲ學ンテ此情態ヲ寫シ出ス者ナレバ田舎ノ士族ハ益新聞紙ヲ信シ其記者ヲ愛顧シテ餘念アルヲナシ願テ新聞社ノ帷幄ヲ見レバ各社互ニ少シク其論說ノ風ヲ異ニシテ自家ハ自家ノ定説ヲ主張スルガ如クナリト雖最第一ノ緊要事ハ論說ノ如何ヨリモ賣捌ノ如何

ニ在テ存スルモノナレバ記者ハ世間ノ愛顧ヲ買ハソガ爲ニ益彼新婦
 様ヲ粧ヒ甚シキハ溫柔嬌艶ノ文飾ヲ却掃シテ殺伐亂暴ノ質ヲ發露シ
 罰金ヲモ憚ラズ禁獄ヲモ恐レズ犯罪ノ多少ヲ以テ賣捌ノ盛衰ヲトス
 ル者アルノ勢ニ至レリ故ニ今ノ新聞記者モ亦間接ニ兵亂ヲ教唆スル
 者ナリ

小吏ノ威

第九 維新以來四民同權ノ旨ヲ以テ政法ノ改革ハ行ハレタル數百
 年來人心ニ浸潤シタル習慣ハ一朝ノ改革ニ由テ脱ス可キニ非ス今日
 ニ至テモ田舎ニテハ士族ハ士族ヲ以テ自カラ居リ平民モ亦コレヲ士
 族視シテ怪シマザル者アリ而シテ政府ノ尊クシテ嚴ナルハ今モ昔モ
 同様ナルガ故ニ平民ガ官吏ヲ見テ恐縮スルノ情ハ徳川ノ時代ニ異ナ
 ラズ固ヨリ官吏ノ虛威ヲ制スルハ今ノ政法ノ趣意ニシテ政府上流ノ
 地位ニ居テ聊カ活眼ヲ具スル人ハヨク此趣意ヲ解シテ誤ルコト少ナシ

張ルハ數
 百千年來
 養成シタ
 ル士族ノ
 習慣ニシ
 テ人ノ罪
 ニ非ズ勢
 ノ然ラシ
 ムルモノ
 ナリ其個
 々ニ就テ
 之ヲ見レ
 バ殊更ニ
 威張ルヲ
 以テ樂シ
 ム者ニ非
 ズ唯識ラ
 ズ知ラズ
 シテ愉快
 ナ覺ルノ

ト雖如何セシ無數ノ小吏各舊藩ノ中ヨリ出現シタル者ナレバ舊時
 ノ威張りヲ忘ルコト能ハズ此輩ガ官吏ト爲テ得々タル由縁ハ實ニ紛
 料ノ口ナ糊スルガ爲ノミニ非ズ所謂御役人様ノ御威光ヲ身ニ纏フヲ
 以テ最上ノ愉快ト思フ者ナレバ假令長官ニ老成人アリテ之ヲ程ヨク
 調理シテ其過強ヲ制セント欲スルモ衆寡敵セズシテ到底行ハル可キ
 事ニ非ズ東京ニ於テハ此弊ヲ見ルコト頗ル少ナシト雖田舎ノ地方ニ
 テハ官吏ノ數モ甚タ少ナクシテ恰モ大權ヲ少數ノ手ニ握タル有様ナ
 レバ其威光自カラ強盛ナラザルヲ得ズ此地方官吏ガ舊藩士族ニ接ス
 ルニ固ヨリ法ヲ以テセザルヲ得ズ法ヲ以テ見レバ士族ト平民トノ間
 ニ大ナル差別アル可ラズ平民ノ目ヲ以テ見レバ舊藩モ御上様ナリ今
 ノ縣廳モ御上様ニシテ少シモ區別アルコトナシ或ハ却テ今ノ御上様ノ
 簡易ナルヲ悦フ者多キ程ノコトナレバ士族ハ決シテ然ラズ窮ニ官吏ヲ

同輩ハ如ク視做スノミナラズ某ハ舊某藩ノ何族ナリ、某ハ舊某村ノ何者ナリ、トテ其系圖ヲ糾シ其履歷ヲ詮索シ今ノ關係ヲ問ハズシテ舊ノ彼我ヲ比較シ恰モ今日ノ輕重ヲ量ルニ古代ノ天秤ヲ以テシテ心ニ之ヲ蔑視スル者多シ昔年徳川ノ小吏ガ諸藩ノ地方ニ至テ倨傲ヲ極メタル時代ニ於テハ江戸ノ幕府ハ深遠ニシテ諸藩士ノ敢テ窺ヒ知ル可キモノニ非ズ唯公儀ノ御役人様ヲ以テ通行セシメタルヲナレトモ今日ノ縣廳ハ深遠ナラズ其大概ノ事情ハ士族ノヨク洞知シ得ルナレトモ法ニ於テハ固ヨリ官員ト面目ヲ同フナルヲ得ズ時トシテハ歷々ノ舊大臣ガ等外吏ニ叱咤セラル、モ恐入ルノ外策ナキガ如シ故ニ士族ノ身ヲ以テ四民同權ノ趣意ヲ觀レバ三民ヲ己ガ仲間ニ引上ケテ共ニ政府ニ近ツクニ非ズ政府ノ地位モ三民ノ地位モ舊ニ異ナラズシテ唯己ガ地位ヲ引下ゲテ政府ニ遠カリ固有ノ面目ヲ失シタルノ思ヲ爲セリ

右ノ如ク兵亂ノ近因ヲ枚舉シ終リ余輩決シテ守舊士族ノ心事ヲ以テ道理ニ適スルモノトスルニ非ズ殊ニ騷動ノ端ヲ開ク者ハ士族ノ中就テ最モ智力ニ乏シク最モ無分別ニシテ唯腕力ヲ賴ニシテ一旦ニ事ヲ起シ以テ期ス可ラザルノ万一期スル輩ナレハ其舉動常ニ拙劣ニシテ人望ヲ收ルニ足ラズ助力スル者モナク聲援スル者モナクシテ唯孤立スルノミ其有様ハ恰モ天下ノ形勢ヲ誤解シテ己ガ輿論公議ト思ヒシモノニ賣テレタルガ如シ然リト雖モ政府ノ下ニ立テ政府ニ敵スル者ハ賊ナリ其舉動拙劣ナリト雖モ拙劣ハ以テ罪ヲ赦スノ口實トスルニ足ラズ到底コレヲ誅滅セザル可ラザルナリ維新以來ノ賊徒ハ悉ク誅滅ニ就タリ今後不幸ニシテ再舉スルコトアルモ復同様ノ始末ナラフ政治ノ順道ト云フ可シ然リト雖モ此賊徒ガ國內ニ事ヲ舉ケ隨テ舉シハ隨テ之ヲ撲滅スルノ事情ハ猶人身ノ病テ快復スル者ノ如シ其快

復ハ祝ス可シト雖其病ハ悦フ可キモノニ非ズ故ニ國ノ賊ハ國ノ病ト名ク可キモノナリ今コノ國ノ病ニ由テ如何ナル差響ヲ國ノ生力ニ致ス可キ歟コレヲ吟味セザル可ラズ

兵亂ノ近因ハ様々ナレ其遠因ハ改進ノ元素ト守舊ノ元素ト互ニ相逢フテ相激スルモノナリ而シテ甲ハ力ノ既ニ變形シタル者ニシテ乙ハ未タ變形セザル者ナリ然リト雖其形ノ變不變ニ拘ハラズ二力互ニ相激シテ一方ヲ撲滅スレバ其撲滅セラレタル力ノ量ハ無ニ歸スル歟或ハ又形ヲ變シテ他ノ一方ニ移リ其勢焰ヲ増加スルヲアル可シ之ヲ事實ニ就テ論セソ官兵ヲ以テ賊ヲ討シ事平定ニ屬スト雖何レノ地方ニ不逞ノ徒アリテ何時ニ再舉ス可キヤ計ル可ラズ之ガ爲軍備ハ殊更ニ嚴ニセザルヲ得ズ又世上ニ不逞ノ徒アラソクテ慮レバ其事ヲ發セザルノ前ニ之ヲ制スルヲ最モ緊要ナレバ之ガ爲ニ警察ノ法ヲ密

ニセザル可ラズ人民ノ輻湊スル都會ハ勿論田舎ニテモ士族ノ多キ舊藩地ニ於テハ巡查ノ仕組ヲ整理シ地方官モ殊更ニ意ヲ用ヒテ人民保護ノ定職ノ外ニ兼テ又士族ノ舉動ヲ觀察シテ適宜ノ處置ヲ施サベル可ラズ斯ノ如ク日本國中ニ眼力ヲ及ボシ不虞ニ預備シテ遺ス所アラザレバ何様ノ賊徒モ恐ル、ニ足ラズ微シク不軌ノ痕跡ヲ露ハス者アラソク警察ノ知ルアリ警察機ヲ誤テ暴發ニ及ハシ歟鎮臺ノ在ルアリ鎮臺ノ力不足スル歟一瞬ノ電報ハ即時ニ數千ノ援兵ヲ用意シ陸ニ鉄道ナキモ海ニ蒸氣船ノ便アリ且封建ノ時代ニハ諸藩ノ地ニ多少ノ武器モアリ兵糧モアリテ事ヲ起ス者ノ爲ニハ屈強ノ根據タリシモノ今日ニ至テハ城郭ヲ毀テ弓矢鉄砲ヲ棄クルハ勿論又同時ニ諸方ノ寺院街道筋ノ本陣モ零落シタレバ假令ヒ人數ヲ集メテ兵糧ノ才覺スルモ飯ヲ炊クニ大釜モナキ様ニテ反謀ナグトハ思モ寄ラヌ勢ナリ今ノ賊

徒ヲ制スルハ甚ク容易ニシテ之ヲ恐ルハ不足ヲザルナリ
如何ニ無分別ナル頑固士族モ一度ヒ指ヲ燒テ再ヒ火ヲ撮ム者ハナク
ラン再三ノ失策ニ懲リテ又コレニ懲リ遂ニハ得意ノ慷慨ヲモ斷念シ
テ放心シタルカ如ク、大切ナル一命ヲ棄テ、僥倖ノ名ヲ求メンヨリ五
匁ノ濁酒ヲ飲テ一夜ノ安眠ヲ買フニ如カズ、無益ニ世事ヲ談シテ産ヲ
破ランヨリ畑ニ芋ヲ作テ飢ヲ醫スルニ若カズ、名ヲ求ルハ實ヲ得ルニ
若カズ、子ヲ教ルハ錢ヲ取ルニ若カズトテ唯竈邊ニ奔走シテ鹽噌ト共
ニ討死スル歟、然ラザレバ自暴自棄ノ境界ニ陥リ其身躬カラ身ヲ置ク
ノ地ヲ知ラズシテ坐シテ壽命ノ終ルヲ待ツノ外ニ名案ナキニ至ル可
シ斯ル有様ニテ十年ヲ過キ二十年ヲ經テ第二世ノ士族ニ至ラバ殆ン
ト士族ノ痕跡モナク幸ニ家ニ殘ルモノハ典物ニモ通用セヌ鉄作りノ
大小ト胴着ノ裏ニシタル拜領ノ紋服ニシテ其由來ヲ老婆ノ口碑ニ聞

政治ノ生
ヲ失ヒ盡
シテ肉體
ノ生ヲ餘
スノミ

テ奇異ノ思ヲ爲スノミ概シテ云ヘバ士族ノ精氣ハ既ニ蒸發シ盡シテ
三民ニ等シキ歟或ハ尙コレヨリモ貧困ニシテ賤シキ糟粕ノミヲ遺ス
ニ至ル可シ既ニ三民ニ混同シテ毫モ區別ヲ見ズ其卑屈固ヨリ知ル可
シ昔日ハ百姓町人ガ士族ヲ見テ御武家様ト崇メ恐レシモノ二三十年
ノ後ニハ此御武家様ノ二代目ガ政府ノ官吏ヲ見テ御役人様ト恐レ入
リ巡查來ルノ一喝ヲ以テ孫兒ノ啼ヲ止ルノ日アル可シ
既ニ士族ノ精氣ヲ蒸發シ盡シタルバ又兵亂ノ慮アルコトハ兵亂ノ慮
少ナケレハ唯首府ノ權力ヲ盛大ニシ其勢ヲ以テ全國ヲ制スルハ甚ク
容易ナリ一度ヒ國勢ノ中心ト爲レハ勢ハ以テ勢ヲ集ルノ方便ト爲リ
テ次第ニ益中心ノ勢ヲ増シ兵權モ爰ニ在リ、財權モ爰ニ在リ、人才モ爰
ニ輻湊シ、商賣モ爰ニ繁昌シ、全國ノ權勢ヲ一首府ニ合集シテ首府ハ即
チ日本ニシテ日本ハ即チ首府ニ在テ存スルノ有様ト爲ル可シ願テ田

省ノ地方ヲ見レバ無數ノ群民ハ至靜ノ太平、租税ノ責アリト雖モ飢ニ至ラズ民費ノ苦情ヲ訴ルト雖モ其實ハ甚タ苛キニ非ズ毎年定リノ所務ヲ拂ヘバ他ニ必ニ關スルモノナシ一家ノ事ニ忙ハシ何ゾ一村ヲ顧ルニ遑アラシク況ンヤ一都ヲヤ況ンヤ一州ヲヤ尙況ンヤ日本國ノ事ニ於テチヤ日本國ハ東京ニ在リ我輩ノ知ル所ニ非ズトテ一國ノ盛衰興敗ヲハ舉ケテ之ヲ他ニ任シ己ガ本國ヲ以テ正ニ逆旅ノ觀ヲ爲ス者ノ如シ或ハ稀ニ智力逞シキ者アレハ忽チ去テ首府ノ地ニ奔リ故郷ヲ忘ルハ弊屣ヲ棄ルニ異ナラス又或ハ田舎ノ地ニモ小市都ナキニ非ズ舊ノ兵庫、下ノ關、長崎等ハ即チ其地ニシテ商賣工業モ自カラ繁昌スト雖モ此市都ノ人民ガ生チ營ムハ正シク其字義ヲ誤ラズシテ唯一片ノ生命ヲ保チ後生安樂ニ此世ヲ渡ランガ爲ニ孜々トシテ經營スル者ナレバ其目的ハ錢ノ外ニ在ラズ必竟肉體ノ生チ有シテ政治國事ノ生チ

キ者ト云フ可シ故ニ此輩ニ假令ヒ五万ノ富アルモ恰モ金箱ニ人ノ魂ヲ入レタルガ如ク十名ノ富豪ハ取リモ直サズ十箇ノ金箱ニシテ固ヨリ說モ議論モアル可ラズ此勢ヲ以テ次第ニ進ミ不時ノ事變ナシシテ二三十年ノ後ニ至ラバ政府ノ基礎ハ益固ク人民ノ氣風ハ愈穩ニシテ殆ト昔ノ一藩地ニ彷彿タルノ有様ヲ出現ス可シ封建ノ時代ニ三百ノ大名ガ各一藩ノ地方ヲ占メテ其權勢ヲ城下ニ集メ領民ハ唯城下ノ支配ヲ仰テ他ヲ顧ルコナク恰モ日本國內ニ三百ノ中心ヲ設ケテ事物ノ順序ヲ保チシモノナシ今ハ之ヲ合シテ一中心ト爲シ其順序ヲ保ツノ法ハ以前ニ等シキノミナラズ政令一途ニ出テ、自由ニ人オチ登用スルノ路ヲ開タル事ハ簡ニシテ自カラ私曲モ少ナク之ヲ門閥專制ノ醜風ニ比スレバ其得失万々同日ノ論ニ非ズ加之學校ノ教モ次第ニ繁盛ナルニ從テ世間ニ字ヲ知ル者ノ數ヲ増シ學問モ上達シ藝術モ進ミ人

品ハ自カラ高尙ニ變シテ又昔日ノ訥朴ニ非ズ或ハ柔順狡猾ノ譏ハ免
レザルモ粗野亂暴ノ咎ヲ受ルコナカル可シ

右ノ如ク政府ノ基礎ハ益固ク人民ノ氣風ハ愈穩ニシテ然モ世間ニ交
雅ノ燦然クルヲ見ルガ如キハ政府ノ爲ニ祝ス可シ又人民ノ爲ニモ賀
ス可キニ似タリ然リト雖モ余輩ノ所見ニ於テ今一步ヲ進メテ之ヲ考
レバ此有様ハ唯其時代ノ政府ト人民トノ爲ニ一時ノ祝賀ヲ呈ス可シ
ト雖モ永遠ヲ慮テ全國ノ利害ヲ謀レバ之ヲ賀スルノ中ニ又吊ス可キ
モノアリ其次第ハ士族モ漸ク氣力ヲ失ヒ他ノ人民ハ初ヨリ氣力ニ乏
シキ者ナレバ國事ニ對シテ薰モナク臭モナク有レモ無キガ如クナリ
ト雖モ士族ナリ平民ナリ等シク一國ノ人類ナレバ悉皆無氣無力ノ極
度ニ沈ム可ラズ況ンヤ今後學校ノ教育ハ日ニ盛ニシテ人ノ智見ヲ廣
クシ門閥專制ノ治風ハ公私共ニ行ハレザルノ時運ニ於テ苟モ身ニ才

一國ノ政
府ト國ト
ハ自カラ
區別アリ

學ノ覺アル者ハ蠢爾トシテ其處ニ安スルコト能ハザルモ亦自然ノ勢ナ
リ是ニ於テカ世ノ人才ト稱スル者ハ士民ノ別ナク各身ニ適シタル地
位ヲ求メントスレモ如何セン其地位ハ早ク既ニ政府ニ占領セラレテ
遺ス所アルコトナシ商賣工業ニ從事セン歟政府ニ依ラザレバ財本ヲ得
ベカラズ或ハ之ニ依ラントスルモ政府自カラ既ニ着手セリ新地ヲ開
墾セン歟同様ノ始末ナリ鑛山ヲ開カン歟亦同様ノ始末ナリ或ハ學校
ヲ開テ生徒ヲ教ン歟官ノ學校ニ非ザレバ資本ヲ得ズ官校ノ教師タル
ニ非ザレバ給料ヲ得ズ著書翻譯ノ事ヲ業トセン歟官ニ出版ノ廉價ナ
ルモノ多クシテ之ト競フ可ラズ地方ニ民會ヲ起シテ事ヲ議セン歟幸
ニ區戸長タルヲ得テ地方官ノ指令ニ柔順スルニ過キズ百方地位ヲ求
メテ地位ヲ得ズ乃チ政府ニ進テ官員タラントヲ求レバ其席ハ既ニ充
滿シテ又一入ヲ納ル可ラズ進ムニ席ナク退クニ座ナシ知字ハ憂患ノ

始マリ、貧者ノ幸福ハ無學ヲ最トストハ正ニ是ノ謂ナラン多年辛苦ヲ學ヒ得タル學藝ハ偶マ以テ心ヲ惱マスノ器械タル可キノミ西洋某氏ノ經濟論ニ官員ノ人品ハ給料ノ多寡ニ準ス可シ給料高ケレハ高キ人物ヲ得可シ給料賤シケレハ賤シキ人物ヲ得ベシトアレハ此論ハ必竟彼ノ國ニテ人民ノ社會ニ私ノ仕事多キ場所ニ通用ス可シト雖モ我日本ニ於テハ決シテ然ラズ人物ノ輻湊スル所ハ唯政府ニ限り其人物ハ常ニ餘アリテ政府ノ仕事ヲハ何程ニ手廣クスルモ迎モ此人員ヲ用ヒ盡ス可ラズ所謂需用ト供給ト其平均ヲ失シタルモノナレハ數年ノ後ニ月給ノ高ハ次第ニ減少セザルヲ得ズ今ノ月給ニ二割ヲ減シ三割ヲ削リ或ハ半減ニ至ルモ尙人物ハ輻湊シテ政府ニ欠員ヲ遺スナカ
ル可シ

所謂國ノ人物ハ私ニ地位ヲ求メテ地位ヲ得ズ政府ニ之ヲ求メテ又コ

シヲ得ズ且愚昧ノ人民ニ至ルマデモ門閥專制ノ行ハル可ラザルハ既ニ之ヲ悟リテ疑ヲ容レズ而シテ政府モ敢テ專制ヲ行フノ意アラザレハ無數ノ人物ニ月給ヲ與テ官員ト爲ス可キノモ非ズ愚昧ノ小民ニ大政ノ權柄ヲ渡ス可キノモ非ズ止ムヲ得ザルノ次第ニテ之ヲ國事ノ局外ニ置カザルヲ得ズ既ニ局ノ内外ヲ區分シタリ容易ニ局内ヲ競ハシム可ラズ在昔徳川ノ時代ニハ此局内ナルモノ甚ダ高遠ニシテ天ノ階ヲ登ル可ラザルガ如ク、如何ナル人物人才モ敢テ其内ヲ競ハントシテ試ル者モナク安心シテ之ヲ天然ニ歸シタリシガ今ヤ則チ然ラズ局内高遠ナラザルニ非ザレハ手段ヲサヘ得ルヲナレハ内ニ入ル可キノ路モアラソカト到底之ニ絶念スルヲ得ズ之ヲ譬ヘハ國事ノ局内ハ天上ノ樂園ノ如シ古ハ此樂園ニ鉄門ヲ構ヘテ何等ノ術ヲ用ルモ其内ヲ窺ヒ得ザリシモノ今日ハ此鉄門ヲ廢シテ硝子ノ戸ニ引替ヘ、ヨク園内

ノ景況ヲ觀ル可シト雖ヒ尙コレニ入ルヲ得ズ堪ヘ難キ事態ト云フ可シ此堪ヘ難キ事態ノ中ニ在テ人ノ品行如何ヲ考レバ鉄門ノ時代ハ夢中ノ暗ニシテ却テ人々ノ誠實純朴ヲ存ス可シト雖ヒ硝子戸ノ世ニ至テハ夢中ノ如ク又醒メタルガ如ク半夢半醒ノ間ニ社會一般ノ品行ヲ害スルヲ必然ノ勢ナリ怨望嫉妬佞諛欺詐ノ事ハ昔日ニ比シテ幾倍ノ量ヲ増ササルヲ得ズ世ノ爲ニ吊ス可キモノナリ(品行ニ關ス)

世ノ開クルニ從ヒ奢侈モ共ニ增長スルハ人事ノ常ニシテ之ヲ防クニ殆ト術ナキガ如シ道德節儉ノ教モ左マデ有力ナルモノニ非ズ老成人ノ誠モ之ヲ用ル者少シ況ンヤ政府ノ法ヲ以テ之ヲ制セントスルニ於テチヤ到底事實ニ行ハレタルヲアルヲ聞カズ殊ニ陋醜野鄙ヲ避ケテ文雅秀麗ニ赴クハ實ニ文明ノ最大一箇條ナレバ其文秀ト奢侈トノ區分ニ至リ頗ル困難ナル場合アリテ人々ノ所見ニ從ヒ或ハ奢侈ト認ル

モノアルモ之ヲ不問ニ置カザルヲ得ズ滔々タル天下ノ奢侈コレヲ如何トモス可ラザルナリ然リト雖ヒ此滔々タル天下ニ於テ尙奢侈ノ一部分ヲ防キ止ム可キモノヲ求レバ唯人々ノ内ニ存スル自信ノ心アルノミ蓋シ自信ノ心トハ自カラ其身ヲ信シテ自カラ頼ニスル心ナリ譬ヘバ家ニ巨万ノ富アル者ハ却テ粗衣粗服シテ耻ヂザルガ如シ其コレヲ耻ヂザルハ何ゾヤ家ノ富ヲ頼ニスレバナリ尙コレヨリモ高上ニ進ミ顔子ガ陋巷ニ居リ雲水ノ僧侶ガ乞食ノ具似チシテ之ニ安スルハ己ガ志ヲ頼ニスレバナリ又在昔日本ノ士族ガ家ハ貧ニシテ僅ニ飢寒ヲ凌キ借財ノ斷リニモ殆ト當惑シテ漸ク其日ヲ送ル程ノ様ナレヒ一腰ノ大小チバ大切ニシテ得意ノ顔色ヲ爲シタルハ忠義武勇ノ名ヲ頼ニスレバナリサレバ自信自頼ノ心ハ其時代ニ尙細ニ云ヘハ其中間ニ行ハルハ輿論公議ノ方向ニ由テ生ス可キモノニシテ此心アレバ亦以テ

浮世ノ奢侈ヲ制スルノ一手段タル可シ然ルニ今後日本ノ成行キヲ考
レバ彼ノ國事ノ局外ニ居ル者ハ固ヨリ心事ノ方向ヲ定ム可ラズ又局
内ノ人モ前ニ云ヘル如ク黑白ノ雜套ニシテ未タ其歸スル所ヲ得ズ何
レモ自信自賴ノ確心ヲ抱ク者ニ非サレバ奢侈ノ元素ハ其發生ヲ逞フ
シテ男子ハ其烟管ヲ黃金ニシ婦人ハ其帶ヲ錦ニシ學者士君子ノ出デ
立テハ役者ノ如ク與様ノ裝ヒハ藝者ニ紛ラハシク唯一時ノ外様ヲ以
テ豪華ヲ闘ハシムルノ風ヲ成シ尙此際ニ乘シテ外ヨリ入ルモノハ所謂
西洋ノ文明品ニシテ家屋ナリ器什ナリ衣服ナリ飲食ナリ其品ノ新奇
ナルハ悦フ可ク其價ノ高キハ貴フ可ク恰モ之ニ垂涎心醉シテ爭ヒ求
メザルハナシ今日ニ於テモ人ノ家ニ洋品ノ多寡ヲ見テ主人ノ貧富貴
賤ヲ知リ尙甚シキハ之ニ由テ其賢愚ヲトスルニ至ルノ勢アリ古今ノ
奇談ト云フ可シ此勢ヲ以テ今ヨリ二三十年ヲ過キナハ其間ニ公私ノ

財本ヲ浪費スルヲ實ニ恐ル可キモノアル可シ是亦國ノ爲ニ吊ス可サ
モノナリ(奢侈ニ關ス)

中英ノ集權ハ既ニ勢ヲ成シテ動カズ全國ノ地ハ黨モナク臭モナキ群
民ノ居處ト爲リ國事ノ局外ニ居ル有志ノ輩ハ正ニ方向ニ惑迷スル其
際ニ當テ外國人が常ニ企望スル内地雜居ノ目的ヲ達スルヲアラハ國
勢又一變セザルヲ得ズ内地ニ雜居セントスル外人ハ新ニ本國ヨリ渡
來スル者ニ非ズ必ス多年日本ニ出入シテ日本人ニ接シタル者ナレバ
自カラ之ニ接スルノ熟練アリ内地ノ群民ハ初テ外國ノ人ヲ見ルヲナ
レバ其如何ノ情態ヲ知ルニ由ナシ一ハ熟練シテ一ハ未熟ナリ元來ノ
智愚ニ差アリ加ルニ熟練ノ相違ヲ以テス双方相接スルノ其日ヨリ主
客處ヲ異ニシテ外人ノ制御ヲ受ルハ必然ノ勢商賈ニ欺カレ約條ニ曲
ヲ蒙ル可キハ固ヨリ論ヲ俟タズ或ハ宗教ノ關係モアラン或ハ婚姻ノ

關係モアラン、尙小ニシテ雇人出入ノ關係アリ、遊獵發砲ノ關係アリ、其
 交際千緒万端ニシテ一方ハ慄慄狡猾ナル外國ノ旅客、一方ハ愚鈍無法
 ナル田舎ノ群民、中央ノ政府ハ常ニ隔靴ノ思ヲ爲シテ遺憾ニ堪ヘズト
 雖此處ヲ縫彌セントスレバ彼處ニ破裂シ、一事未タ終ラズシテ又二
 事ヲ生シ、何様ノ氣力ヲ振ヒ、何様ノ術ヲ用ルモ一父ノ兩手ハ百子ノ手
 ナ取テ之ヲ導ク可ラズ譬ヘバ人民ノ間ニ公事訴訟アラシニ内國相對
 ノ事ナレバ之ヲ聽ク可容易ナレバ原告被告ノ外ニ更ニ第三ノ外國人
 ナル者アリテ之ガ引合ト爲ルキハ其引合ノ爲ニ徒ニ事ヲ遲滯セシム
 ルヲモアル可シ或ハ直ニ内外ノ間ニ公事ヲ起サン歟、仮令ヒ何等ノ規
 則アルモ今日ノ勢ニテハ此方ニ十分ノ利アルヲ期ス可ラズ開港以來
 ノ實驗ニ由テ知ル可シ尙コレヨリモ苦々シキハ人情適スル所ヲ失ヒ
 愛國心ノ薄キハ紙ノ如クニシテ唯一時ノ安ヲ求メントシ學者士君子

舊幕府ノ時代ニシテ外國人ノ小使ニシテ折助同様に老中ノ表立ニ關テ立無禮ヲアリタルヲ

ト稱スル者マデモ外人ニ依頼シテ得色ヲ爲スコト今ノ國小使ノ如キ外
 者モアラン、尙甚シキハ己ガ不平ヲ慰ルニ其道ヲ誤リ竊ニ外人ノ力ヲ
 借テ自國ノ法ニ抗セントスル者モアラン既ニ商賣ニ由テ錢ヲ損シ又
 裁判ニ由テ權ヲ失ヒ之ニ加レニ賣國兒ノ在ルアリ國ノ獨立疑フ可シ
 吊ス可キノ最モ大ナルモノナリ
 右ハ今後ヲ想像シテ不祥ノ有様ヲ寫シ出シタルモノナリ論者或ハ之
 ナ過慮ナリト云ハン歟、過慮ノ失策ハ短慮ノ失策ニ勝レリ余輩假令ヒ
 過慮ノ譏ヲ招クモ之ヲ心ニ思ヘバ口ニ述ヘザルヲ得ズ明ニ之ヲ述ヘ
 タリ然ハ則チ之ヲ救フノ術ハ果シテ如何ス可キヤ云ク日本國ノ盛衰
 興敗ノ原因タル士族ノ方向チ一ニシテ改進者流モ守舊者流モ同一様
 ノ道ニ進ムノ一法アルノミ其法如何セン之ヲ吟味セザル可ラズ
 封建世祿ニ復シ今ノ舊藩士族ヲ舊ノ武家ノ如クニシテ軍役ヲ託シ其

内ヨリ人物ヲ撰デ之ヲ中央政府ノ文官ニ任セシ歟、三百色ノ舊藩士族ガ三百色ノ武備ヲ作り三百色ノ文官ガ三百色ノ説ヲ吐キ恰モ一棟ノ家内ニ三百ノ竈ヲ築テ一列ノ「テールブル」ニ會食スルノ策ナラン結局空中樓閣ノ考ナリ等ノ論アマリ無稽ナルガ如クナレ世ノ中ニハ是然ハ則チ今ノ士族ヲ採用シテ悉皆政府ノ官員ト爲サン既ニ官員ト爲レバ共ニ改進黨ノ道ニ進ム可シ此策可ナラン歟政府ハ今ノ官員ノ既ニ多クシテ尙熱中スル者アルニ因却セリ之ヲ如何ゾ四十万ノ官員ヲ作ル可ケンヤ養フニ米ナシ給スルニ錢ナシ是亦空中樓閣ノ考ナリモ此論稽ナレト今士族ノ家祿ヲ様々ニ保護シテ之ヲ籠絡セントスルノ考ヲ抱ク者ナキニ非ズ此考ヲ擴レバ結局本論ノ旨ニ歸セザルヲ得ズ依テスナリ

以上三策ハ今ノ時勢ニ行ハル可ラズ又今後幾百年ヲ待ツモ之ヲ行フ可キノ日ナカル可シ然ハ則チ方向ヲ共ニシテ同一様ノ道ニ進マント

力ヲ消滅
セズシテ
之ヲ變形
セシム

スルニハ先ツ其向フ所ヲ改進黨ノ方ニ定メテ確乎不拔ノ標的ヲ示シ彼ノ國事ノ局外ニ居ル者ヲシテ其標的ニ向フ可キノ地位ヲ得セシメ以テ守舊士族ノ働ヲ問接ニ變形セシムルノ一策アルノミ蓋シ其働ハ之ヲ敵視シテ直接ニ撲滅スレバ或ハ無ニ歸ス可キガ如クナレ其多少ノ量ハ其族ニ固有スルガ故ニ之ガ形ヲサヘ變スレバ國ノ實用ヲ爲ス一固ヨリ疑ヲ容ル可ラズ世論或ハ今ノ士族ヲ無用ノ長物ト云フ者アラソ實ニ此族中ニハ無用物モ多ク其働ヲ變形セシメントシテ働ノ量ナキ者モアリト雖モ物ノ極度ヲ摘シテ一般ノ論ヲ定ム可ラズ且余輩ガ所謂士族トハ必スシモ双刀ヲ帶シテ家祿ヲ有シタル武家ノミヲ云フニ非ズ醫者ニテモ儒者ニテモ或ハ町人百姓ニテモ讀書武術等ノ一藝ニ志シテ天下ノ事ヲ心頭ニ掛ル者ナバ概シテ之ヲ論スルヲナレ此類ノ人ハ必舊武家ニ多クシテ割合ニスレバ十中ノ八九ヲ占ルガ故

ニ士族ノ名ヲ下シタルノミ一般ニ目シテ士族ヲ無用ノ長物ト云フ可
ラズ況ンヤ其既ニ變形シテ改進ノ路ニ就キ國事ノ局外ニ居ル者ニ於
テチヤ恰モ殊更ニ用意シタル國ノ良材ト名ルモ可ナリ

局外ノ人ナシテ其處ヲ得セシメ間接ニ士族ノ働ヲ變形スルノ手段ヲ
論スル前ニ先ツ國權ノ區別ヲ示スト緊要ナリ抑モ國權ニ二様ノ別
アリ一ヲ政權ト云フ西洋ノ語コレヲ「ガールメント」ト稱ス一ヲ治權ト
云フ即チ西洋ニ所謂「アドミニストレーション」ナルモノナリ政權ニ屬ス
ルモノハ一般ノ法律ヲ定ルヲ徵兵令ヲ行テ海陸軍ノ權ヲ執ルヲ中央
政府ヲ支ルガ爲ニ租稅ヲ収ルヲ外國交際ヲ處置シテ和戰ノ議ヲ決ス
ルヲ貨幣ヲ造テ其品位名目ヲ定ル等ノ如キ全國一般ニ及ホシテ恰モ
一樣平面ノ如クナラシムルノ權力ナリ治權トハ國內各地ノ便宜ニ從
ヒ事物ノ順序ヲ保護シテ其地方ニ住居スル人民ノ幸福ヲ謀ルヲナリ

即チ警察ノ法ヲ設ケ道路橋梁堤防ヲ營繕シ學校社寺遊園ヲ作り衛生
ノ法ヲ立テ區入費ヲ取立ル等はナリ故ニ政權ハ全國ニ及ホシテ一樣
ナレトモ治權ハ決シテ然ラズ地方ニ貧富ノ差アリ人民ニ習慣ノ異アリ
之チ一樣ニセントスルモ得ベカラザルナリ譬ヘハ都會ノ地ニ於テハ
裸休ヲ禁シ路傍ニ小便スル者ヲ止ム可シト雖モ田舎ニ於テ此令ヲ施
ス可ラズ都會ノ河ニ洪大ナル橋ヲ架スルハ事實ノ便利ヲ得ルノ外ニ
兼テ又都下ヲ飾ルノ具タル可シト雖モ田舎ノ堤防ニハ潤飾ヲ用ユ可
ラズ費ヲ省テ實地ノ氷害ヲ防クヲ緊要ナルノミ當ニ都鄙ノ趣ヲ異ニ
スルノミナラズ一市一邑モ互ニ之チ同フス可ラザルモノ多シ今其一
ニチ舉レバ貧村ニ巨大ナル學校ヲ築キ既ニ資本ヲ費シ盡シテ生徒ノ
教育ヲ忘ルノミナラズ建物ノ修覆ニモ當惑スル者アレハ舊城下ノ
地ニハ唯小學校ノミヲ設ケテ士族秀英ノ子弟ハ稍ヤ高尙ナル洋學ニ

都會ノ地
ニハ水菓
子流行シ
テ田舎ニ
ハ駄菓子
多シ蓋シ
多シ蓋シ
物ハ上品

入ルノ方便ヲ得ザル者アリ、數百年來ノ氏神ハ其神体ヲ取替ヘ此里ニ
信仰ノ佛ハ彼ノ山ニ引越シ恰モ神佛ノ黽陟進退セラル、ニ由テ土民
ハ參詣ノ目的ヲ失ヒ尙甚シキハ年來參詣人ノ爲ニ生活ヲ營ミシ輩ハ
一時ニ産ヲ破ル者アリ、商戸稠密ノ市邑ニ下水汚穢ノ溜滯ヲ注意シテ
熱病ノ用心ハ緊要ナレト下水ノ汚穢ヲ拂テ其地ニ古來未ダ曾テ有ラ
ザル妓樓ヲ作り熱病ヨリ劇シキ梅毒ヲ傳染スルモノアリ何レモ皆風
俗習慣ヲ察シタルモノト云フ可ラズ南方ト北方ト習慣ヲ殊ニシ、水國
ト山國ト風俗ヲ別ニシ、或ハ物ノ名ヲ異ニシ、道具ノ形ヲ異ニシ、家屋衣
裳ノ作りヲ異ニシ、宴樂遊興ノ風ヲ異ニシ、甚シキハ飲食ノ品ニモ好惡
ノ異同アリテ遠ニ之ヲ見レバ其地方ノ人民ハ事物ノ良否、便不便ヲ知
ラザル歟ト疑フ可キモノナキニ非ザレト其實ハ決シテ然ラズ所謂習
慣ノ天性ニ變シタルト又其傍ヨリ不良不便ト認ル物ノ中ニ自カラ實

コシテ炭
素ヲ含ム
モノ多キ
ガ故ニ其
素質少ナ
キ菓實ヲ
好ミ田舎
ノ食物ハ
之ニ反ス
ルガ故ニ
駄菓子中
ニ含有ス
ル炭素ヲ
好ムトリ
又昔日大
名家ノ御
殿ニ居ル
上等ノ婦
人ガ水菓
子ヲ取ラ
ズシテ蒸
菓子ヲ好
ムモ其平

ノ便利ヲ備フルモノナリ其趣ハ殆ト緻密微妙ニシテ他人ノ得テ臆測
ス可キ所ニ非ズ此緻密微妙ナル風俗習慣ニ依テ治道ヲ施シ各地ノ人
民ヲシテ其所ヲ得セシメントスルヲナレバ其治權決シテ全國ニ一樣
ナル可ラズ地方永住ノ人ニシテ始テ地方ノ情實ヲ詳ニス可キナリ政
權ト治權ト趣ヲ異ニスルヲ以テ知ル可シ
世間ノ學者ガ國權ノ事ヲ論シ中央集權、地方分權トテ利害ノ議論喋々
タレト之ヲ論スルニハ先ツ其集メントシ又分メントスル所ノ權ノ種
類ヲ區別セザル可ラズ分權論者ハ政權ヲ分タント欲スル歟、各處ニ法
律ヲ作り、各處ニ軍備ヲ設ケ、各處ニ租稅ヲ定メ、各處ニ和戰ヲ議スルガ
如キハ恰モ一國內ニ幾多ノ獨立國ヲ設ルニ異ナラズ舊幕府專制ノ治
風、妙ヲ得タリト雖モ歴代ノ欠典ハ政權ノ集合不十分ナルニ在テ其敗
滅モ亦爰ニ端ヲ開キシニ非スヤ政權中央ニ集合セザレバ國其國ヲ爲

生ノ食物
ニシテ常
ニ炭素ニ
餓ルガ故
ナリ

サズ何等ノ事情アルモ決シテ此權ヲ他ニ貸ス可ラザルナリ又分權論者ノ中ニテ誤解ノ甚シキハ政權ヲモ治權ヲモ區別セズシテ唯今ノ中英政府ノ權ヲ分テ今ノ地方官ニ附與セント欲スル者アリ若シ果シテ其說ノ如クナラバ何等ノ成跡ヲ出現ス可キヤ地方官ニ權ヲ分與スルハ即チ大臣ノ數ヲ増シ一政府ニ三十大臣ヲ命シ又五十大臣ヲ任スルニ異ナラズ徒ニ政府内ノ平均ヲ失フノミナラズ此地方官ガ此權柄ヲ以テ各地ニ政ヲ施スコアラバ人民ノ爲ニハ恰モ第二世ノ領主ヲ得クニシテ各地ニ政ヲ施スコアラバ人民ノ爲ニハ恰モ第二世ノ領主ヲ得クルガ如クニシテ其氣風ハ益退縮スルニ至ル可シ分權ノ名ニ誤ラレテ集權ノ實ヲ得ルモノト云フ可シ又民撰議院ヲ以テ分權ノ旨トスル者アレハ議院ヲ首府ニ設立スルト地方ニ權ヲ分ツトハ全ク別事ニシテ互ニ關係ナキモノナリ議院ノ有無ニ拘ハラズ地方分權ヲ行フ可シ又中央集權ヲ行フ可シ必竟民撰議院ノ功用ハ中央ニ集タル政權ヲ誤用

セシムルコト勿ランガ爲ニ政府ノ内ニ有力ナル地位ヲ占ルモノナリ故ニ分權ヲ欲スル者ハ宜シク其權ノ種類ヲ分別シテ治權ヲ地方ニ分タソコトヲ主張ス可シ

集權論者ハ彼ノ中央集權ニ非ザレバ國其國ヲ爲サズト云フ言葉ニ誤ラレテ政權ヲ集ルハ固ヨリ無論治權ノ些細ナルモノニ至ルマデモ悉皆コレヲ中央ニ集メテ同一様ノ治風ヲ全國ニ施シ各地ノ舊俗習慣ニモ拘ハラズ之ヲシテ眞直水平ノ如クナラシメント欲スル者アリ若シ此考案ヲシテ事實ニ行ハレシメナバ治風ノ外見美ハ則チ美ナラント雖ヒ其人民ノ氣風品行ニ關セル所果シテ如何ナル可キヤ之ヲ察セザル可ラズ社友小幡君ガ抄譯セル佛人トークウヰル氏ノ論ニ云ク中央ニ政權ヲ集合シテ又コレニ治權ヲ集合スルハ非常ノ勢力ヲ生スルヤ明ナリ若シ不幸ニシテ此事アルハ人ヲシテ平常毎事自己ノ意思ヲ

棄テ、他ノ鼻息ヲ仰クニ至ラシム可シ故ニ二權ノ集合ハ當ニ人ヲ脅服スルノミナラズ又人ノ常習ヲ變更シ人ヲ孤立セシメテ個々ニ就テ之ヲ威服スルモノナリ中略集權論者ハ常ニ揚言シテ云ク政府ノ地方事務ヲ取扱フハ人民ノ自カラ之ヲ處スルニ優ルト此說或ハ然ラン中央政府ハ獨リ開明ニシテ地方ノ人民ハ全ツ無智中央ハ神速ニシテ地方ハ緩漫中央ハ事ヲ行フニ慣レテ地方ハ命ニ從フニ慣ルハガ如キ有様ナラバ此說或ハ然ラン然リ而シテ一ハ長スルガ爲ニ事ヲ執リ一ハ短ナルガ爲ニ命ヲ聞クトスルキハ長スル者ハ愈長シ短ナル者ハ愈短ナ加フ可キノミト但シ此抄譯ノ全文ハ校正ノ上家庭叢談ニ出版ス可シト云ヘリ

集權論者ハ又一步ヲ進メ當ニ治權ヲ集合スルノミナラズ商賣工業ノ權ヲモ一處ニ合併シテ殆ト人民ノ私ヲ制セントスルノ考アルガ如シ

蓋シ日本ノ商工ハ數百年ノ久シキ睡眠ノ如ク麻痺ノ如ク至靜ノ有様ニ沈テ唯ヨク他ノ命ニ從フノミニ非ズ求メテ之ニ從ヒ覺テ之ニ依頼スルニ慣レタル者ナレバ之ヲ放頓シテ其爲ス所ニ任スルキハ際限アル可ラズ十年モ百年モ依然タル舊ノ商工タル可ケレバ之ガ睡眠ヲ驚破シ麻痺ヲ感覺セシメントスルニハ固ヨリ一策ナカル可ラズ今政府ニ在ル人ハ其官位ヲ問ハズ履歷ヲ尋チズ唯其智力ノミニ就テ論スルモ日本國中ノ人民ニ於テ先進先覺ノ人物ト云ハザルヲ得ズ然バ則チ先進ハ後進ヲ導カザル可ラズ先覺ハ後覺ヲ教ヘザル可ラズ是即チ人民ノ睡眠ヲ驚破シ麻痺ヲ感覺セシムルノ一策ナリ此一段ニ至テハ日本ノ政府ハ西洋諸國ノ政府ニ比シテ少シ趣チ異ニシ恰モ公務ノ外ニ一ノ私務アル者ノ如シ故ニ自國ノ形勢ヲモ考ヘズシテ西洋ノ空談ヲ聞キ一概ニ自然放頓ノ旨ヲ主張シテ政府ノ他事務ナルヲ咎ルハ

斯ノ如ク
大ニ區
別アリ

實地ニ暗キ者ノ紙上論ノミ然リト雖モ其コレヲ導キ之ヲ教ルノ方法
ニ就テハ頗ル考案ヲ要スルヲナレバ輕々着手ス可ラズ政府ヲ人民ノ
先進先覺ト云フト雖モ唯斯ノ如クス可シトノ說ヲ發明シタルノミニ
シテ未タ斯ノ如クスルノ術ヲ得タル者ニ非ズ實際ノ術ニ至テハ仮令
ヒ理論ニ乏シキモ人民ノ習慣ニ由テ熟知スル所ナレバ固ヨリ政府ノ
及バザルモノナリ之ヲ譬ヘバ船ノ圖ヲ引ク者ハ必スシモヨク船ヲ作
リ船ヲ運用スル者ニ非ズ病理書ニ明ナル者ハ必スシモヨク病ヲ診察
シテ治療ニ巧ナル者ニ非ザルガ如シ故ニ政府カ人民ヲ教導スルニ其
發明シタル斯ノ如クス可シノ說ヲ示スハ是ナリト雖モ其未熟ナル斯
ノ如クスルノ術ヲ行フハ非ナリ之ヲ物ニシテ論スレバ物ノ圖ヲ畫キ
其雛形ヲ造ル可シ其實物ヲ制ス可ラズ銀行モ雛形、開墾モ雛形、器械ノ
用法モ雛形、建築ノ方法モ雛形、又彼ノ學校病院等ノ如キモ一切雛形ノ

考ヲ以テ之ニ從事セザル可ラズ既ニ雛形トアレバ唯費用ヲ省テ目的
ヲ達スルニ注意ス可キハ無論ナレモ眞ノ繪圖雛形ニテハ目的ヲ達ス
ルニ足ラズ是ニ於テカ學校病院モ實地ニ設立シ、建築モ實際ニ施シ器
械モ實物ヲ用ユ可シト雖モ素ヨリ雛形ノ考ナレバ其要ハ粗シテ洪
大ナルニ在ラズ力メテ之ヲ高尙ニシテ力メテ之ヲ縮小シ恰モ文明ノ
事物ヲ中央ノ政府ニ掲ケテ廣ク人民ノ耳目ニ觸レシメ人智開明ニ進
メハ此境界ニモ至ル可キモノナリ政府ハ人民ノ私ヲ制スルヲ好マズ
又コレヲ制スルノ權ヲ有セズ又コレヲ制シテ之ヲ強ヒントスルモ無
益ナルヲ知ルガ故ニ之ニ進ムト進マザルトハ汝等カ必ニ在テ存スト
現ニ口ニ唱ヘテ揚言スルガ如キ形容ヲ示スニ在ルノミ斯ノ如クス可
シノ說ヲ示ストハ即チ是ナリ

若シ此要旨ヲ誤リ斯ノ如クス可シノ說ト斯ノ如クスルノ術トヲ混同

シテ政府自カラ實地ノ事ヲ行ハントスルハ其弊害擧テ云フ可ラズ
 商事工業ノ實際ハ舊藩士族タル今ノ官員ノ最モ短ナル所ニシテ資本
 ノ自在ニシテ巨大ナルハ日本國中政府ノ右ニ出ルモノナシ事ニ拙ナ
 ル者ガ巨額ノ資本ヲ用ヒントシテ其際ニ浪費亂用ノ弊ナキハ万々期
 ス可ラズ舊幕府ノ末年ヨリ維新以來ノ實驗ニ由テ知ル可シ論者或ハ
 云ハシ浪費亂用ノ弊ハ免レ難シト雖モ素ヨリ覺悟スル所ナリ此事ヲ
 起スノ目途ハ損得ヲ今日ニ見ズシテ利害ヲ永遠ニ期スルモノナリト
 此言或ハ人ヲ壓倒ス可キニ似タレモ容易ニ發ス可キ言ニ非ズ之ヲ發
 言セントスルニハ許多ノ思慮ヲ費シ千思萬慮シテ然ル後ニ始テ得失
 ナ斷ス可キナリ譬ヘバ爰ニ一ノ工業ヲ起サントシテ十萬圓ノ資本ヲ
 要スルコアラシ日本國中無用ノ財ナシ必ス之ヲ有用ノ中ヨリ集メテ
 十萬圓ノ高ト爲スコナリ即チ舊キ工業ヲ廢シテ新ラシキ工業ヲ起ス

コナレバ双方ノ得失ヲ考ヘザル可ラズ今ヨリ十年ノ後ニ至リ舊業ハ
 資本ヲ失タルガ爲ニ次第ニ衰微シテ百萬圓ノ損亡ヲ蒙リ新業ハ資本
 ナ得タルガ爲ニ五十萬圓ノ便益ヲ爲サバ差引五十萬圓ノ損ナリ或ハ
 新舊同様ナラン歟差引損益ヲ見ザルノミ此得失ヲ論スルニハ當ニ命
 錢ノ損益ヲ精算シテ官員ノ俸給役所ノ冗費等ヲ枚擧スルノミナラズ
 政府ト人民トノ關係ヲモ算シ人民ノ氣風ノ興廢ヲモ算シ又或ハ此事
 ナ官ニ取ラズシテ拾遺カバ人民ハ悉皆無智無力ニシテ資本ノ有無ニ
 拘ハラズ今後十年モ二十年モ事ヲ企ル者ナカル可キ歟若シ果シテ是
 レ程ニマデ愚昧渾沌ナル人民ノ中央ニ在テ獨リ政府ノ勉勵ズルアル
 モ全國ノ繁昌ハ期ス可ラズシテ到底無益ニハ非ザル歟或ハ然ラズシ
 テ人民モ思ノ外ニ智力ヲ有シ漸ク事物ノ方向ヲ知リ漸ク私ノ資本ヲ
 得ルニ至レバ實地ノ事ヲ行フニハ却テ不熟練ナル官員ヨリモ幾倍ノ

巧ヲ致スヲモアル可キ歟ト之ヲ精算シ之ヲ熟考セザル可ラズ即チ千

思萬慮ヲ費ストハ此邊ノヲ云フナリ

政府ノ權ヲ以テ人民ノ私ニ關涉シ或ハ殊更ニ之ヲ勸メテ保護シ或ハ殊更ニ之ヲ妨ケテ禁止スルモ結局事實ニ於テ有害無益ナリ保護ニモ保護ノ法アリ禁止ニモ禁止ノ度アリトノヲハ西洋諸家ノ經濟書ニ痛ク之ヲ論シテ世上ノ有志者モ既ニ之ヲ知ラサルニ非ズト雖此局ニ當ル者ハ又別ニ見ル所アリテ日本ノ事ハ西洋ノ經濟論ヲ以テ判斷ス可ラズ保護禁止ノ術ヲ用ヒテ大ニ功ヲ奏ス可シトテ益事務ノ煩多ヲ厭ハザル者アルガ如シ此輩ニ向テ事ヲ證スルニハ西洋ノ經濟書ヲ引用スルヨリモ寧ロ日本人ノ言ヲ引テ證ヲ示ス方却テ事實ニ切ニシテ了解ニ便ナル可ケレバ爰ニ廣益國產考ノ一章ヲ掲ルヲ左ノ如シ此書ハ天保十五年濱松藩士大藏永常翁ノ所著ニシテ

書中ノ大意公室ノ利ヲ後ニシテ部下ノ益ヲ先ニスル云々ハ何レモ皆封建時代ノ語氣ニシテ方今ノ考トハ異ナル所アレハ結局政府ノ權ヲ以テ人民ノ私ニ立入ルノ害ヲ論スルノ旨ハ西洋ノ經濟論ニ暗合スルモノト云フ可シ

廣益國產考卷之一第八丁前畧又公室を富しめんとて其城下ハ町人等の商賣に仕來るものと領主より役所或ハ會所をたて其所にて賣買の沙汰を致し農家より商家へちきうりを禁しなど仕給ふことあり其益つもりと云ふ大なれば忽ち御勝手向よくなり斯るに従ひ部下の智恵あるもの其元締方にかやうく被成おぼつもありては是ほどの益と相成候など申出れば其趣を取用ひて其益又少からず然るに又別人よりかやうく被成候へば御益となり候など申出るゆゑ又取用ひ候まゝいつとかく御益筋と号すること多く出來るもの

なり是等ハ多く部下ハ商人の利益と可相成を領主より奪ひ上げ給ふなれば竊に怨むといへども威勢ハ恐れ誰よりて申立る者亦く變あるを待つ元の如くならんことを願ふもの夥しく終ハ騷動を引出す基と爲りたることまゝ聞及びぬ全く御勝手を早くよくせんと斯くて行とせらるゝ事あるば惡法といひ難けれど元來天理ハ戻り先づ下民を安富せしむる事を勤究さるゝるに却て手もどりするを見及ぶこと多し部下よて取扱ふべきものを領主より賣買し給ふことハ勘辨あるべき事なり前にも云ふ如く國の益筋を取扱ふ人なれば此位の事の辨へなくして人も歸服せざれども右云ふ如く脇より追々御益筋と号し勸るを一つ用ひ二つ用ひ終に種々手廻し行ふやうになり行くものと見ゆればゆめゝゝあるそかと思えず手りつらゝ考ふべき事ぞかし

町人ノ言
葉ニ相
葉ニ相
ト云フ
士人ノ
ハ大底
レナ等
ニ思フ
多ク
レハ

政府ノ手ヲ以テ自カラ事ヲ行ハバ結局浪費亂用ノ弊ヲ免レ難シ勢ノ然ラシムル所ニシテ其人ノ罪ニ非ズト雖も入ヲ計ラズシテ出ヲ爲スノ場合ニ至ラザルヲ得ズ然ルニ元來理財ノ道ニ於テ財ヲ費スハ之ヲ費シテ又得ル所アラザンガ爲ノミ資本ヲ費シテ船ヲ造ルハ運賃ノ利ヲ取ランガ爲ナリ元入ヲ卸シテ品物ヲ仕入ルハ賣上ケノ益ヲ得ンガ爲ナリ天下ノ人心ニ異同アラザレバコソ人々ノ私情ヲ以テ此所費ト所得トナ比較シ自カラ出入ノ宜シキヲ制シテ世間ニ競業ノ定則モ行ハルハナラニ今爰ニ入ヲ計ラズシテ出ヲ爲シ所得ヲ顧ミズシテ所費ヲ憚ラザル者アラバ其當局者ノ損得ハ姑ク聞キ之ガ爲ニ世上一般ニ行ハル可キ競業ノ定則ヲ破テ其災害ノ波及スル所必ス廣クシテ大ナラザルヲ得ズ故ニ政府ノ手ヲ以テ浪費ヲ免カレザルノ説果シテ是ナラバ其費ス所ノ高ハ僅ニ十萬ト云ヒ二十萬ト云フモ間接ニ他人ノ

商賈ノ世
界ニハ最
モ大切ナ
リル箇條ナ

蒙ル不便利ハ百萬ニモ二百萬ニモ當ル可シ既ニ費シタル財モ前條ノ如キ始末ニテ十分ノ利益ヲ得ザレバ之ヲ第一ノ損亡ト爲シ又コレヲ費シタルガ爲ニ世間ノ競業ヲ妨レバ之ヲ第二ノ損亡トス一舉二様ノ損亡ト云フ可シ既ニ今日ニ於テモ少シク其痕跡ヲ見ルガ如シ譬ヘバ官ニ病院ヲ設立シ外國人ヲ雇ヒ日本ノ醫師ニ月給ヲ與ヘ器械藥品ヲモ十分ニ整ヘテ患者ニ治療ヲ施スガ故ニ私ニ病院ヲ建テ或ハ醫業ニ従事セント欲スル者モ其競フ可ラザルヲ見テ之ガ爲ニ斷念スル者多シ殊ニ西洋諸國ニテ病院ニ入ル者ハ大抵社會ノ上等ナレトモ今ノ日本ノ病院ニ入ル者ハ却テ中等以上ノ人ナレバ私ニ醫業ヲ營マントスル者ノ爲ニハ屈強ノ病家ヲ失フノ姿ナリ又内外ニ執行シテ既ニ成業シタル洋學者ガ獨立ノ活計ニ路ナクシテ多方ニ奔走シ心ニ慚シトセズシテ遂ニ官途ニ歸シ平々凡々タル役人ト爲テ著シキ功能ヲ見ザル者

多キモ其原因ノ一箇條ハ私塾ヲ開テ官校ヘ競フヲ能ハザレバナリ又近來洋學者ガ眞ニ力ヲ盡シテ原書ヲ翻譯スル者少ナク又翻譯ヲ學フ者モナキハ官版ノ譯書ト賣捌ヲ競フヲ能ハザルヲ知レバナリ又事柄ハ少シク異ナレトモ町人ノ話ヲ聞クニ幕府ノ末ヨリ此節ニ至ルマデモ政府ニ御用ノ洋品ヲ買入ルハ多クハ官ノ手ヨリ直ニ外國人ニ注文スルニ日本ノ商人ハ手ヲ拱シテ之ヲ傍觀スト云ヘリ或ハ此買物ヲ日本人ニ托シタラバ二三ノ手ヲ經テ元價百圓ノ物ハ百五圓ト爲リ外國人ヘ托スレバ百三圓ニシテ二圓ノ差ヲ見ルヲモアラント雖モ結局日本國ガ外國ノ品ヲ買フヲナレバ元價ヲサヘ百圓ニテ引取レバ二圓ノ差ハ論スルニ足ラズ官ニニテ益シテ日本國ハ三ヲ失フノ理ナリ殊ニ外國ノ取引ハ恰モ日本ノ商人ガ今正ニ學校中ノ執行ナレバ勉メテ之ニ進取ノ氣力ヲ與ヘタキヲナリ

有ハ議論ノ枝葉ニ亘リ少シク冗長ニ過キタルガ如クナレハ之ヲ概ス
 レバ政權ト治權トノ分界ヲ區別スルノ趣意ニシテ政權ハ中央ノ政府
 ニ集合セサル可ラズ治權ハ全國ノ各地ニ分テザル可ラズ二權ヲ併シ
 テ集ム可ラズ又コレヲ併シテ散ス可ラズトテ其得失ヲ述タルモノナ
 リ之ヲ譬ヘハ政權ハ猶地心ノ引力ノ如シ地球面ノ萬物一トシテ此引
 力ノ法則ニ從ハザル者ナシト雖日常目撃スル所ニテハ其物ノ景況
 決シテ然ラズ上下左右自由自在ニ運動ヲ逞フシ甚シキハ地面ニ落チ
 ズシテ却テ上ニ向ヒ地心ヲ去テ其引力ニ逆フモノアルガ如シ蓋シ地
 上ニ在ル物ト物トノ關係ニ從テ各個自家ノ運動ヲ自在ナラシムルモ
 引力ノ法則ニ妨アルコトナシ所謂雜沓混亂ノ際ニ條理ヲ紊サハルモノ
 ニシテ造化ノ妙巧ト云フ可シ今治權ヲ分テ其運動ヲ自在ナラシメナ
 ハ或ハ雜沓混亂ヲ致シテ一時ハ人ノ耳目ヲ眩惑スルコトモアラント雖

ハ全國ノ地心タル中央ノ政府ニ政權ノ存スルアレバ毫モ憂ルニ足ラ
 ザルノミナラズ其雜亂ト認ルモノハ即チ國ノ元氣ノ運動シテ腐敗セ
 ザルノ徵候ナレバ之ヲ賀シ之ヲ祝セザル可ラズ政治ノ妙巧ト云フ可
 シ

此説果シテ是ナラバ乃チ又初ニ返テ論緒ヲ續カン我國難ノ原因ハ士
 族中新舊二流ノ相激スルモノナリキ今日マデノ事實ニ由テ證ス可シ
 又今後假令ヒ此守舊士流ノ力ヲ撲滅スルモ國事ノ局外ニ居ル他ノ有
 志者ヲモ悉皆除クノ術アル可ラズ必竟此輩ハ其働ノ變形スルト否ト
 ニ拘ハラズ若干ノ力ヲ有シテ之ヲ用ルノ場所ナキニ困却スル者ナリ
 守舊士流ハ即チ頑固士族ナリ他ノ之ヲ譬ヘハ騎者ニシテ馬ヲ失ヒ射
 者ニシテ弓ヲ得ザルガ如シ今日ニ於テ此弓馬ノ在所ヲ求レバ前段
 所記ノ治權ヲ分テ之ニ任スルノ外手段ナカル可シ即チ局外ノ人ナシ

ア其處ヲ得セシメ間接ニ守舊士族ノ働キ變形セシムルノ手段トハ是ノ謂ナリ編首ニ言アリ天地間ノ力ハ無ヨリ有キ生ス可ラズ有キ消シテ無ニ歸ス可ラズト蓋シ士族ノ働ハ力ナリ之ヲ無ニ歸ス可ラズ其形ヲ變シテ利用ス可キナリ家庭叢談二十三號ニ小幡君ノ譯キ一編アリ今其半ヲ取テ之ヲ左ニ記ス

生誕ノ地ニ戀々シテ須臾モ忘ル、コ能ハザルノ人情ハ天稟ニ發シ一點ノ私心ナク俄ニ見解ヲ下シ難キモノニシテ一種ノ愛國心ノ由テ起ル所ナリ此愛戀ノ心ハ人ノ自然ニ發シ古俗ヲ慕フノ情致ト合シ古昔ノ口碑ヲ尊崇スルノ心ト一トナルヨリ此心胸裏ニ鬱勃貯蓄スルノ人ハ其國ヲ愛スルコト猶其父祖ノ舊廬ヲ愛シテ毀廢スルニ忍ビザルガ如シ或ハ國ノ我ニ與フル康寧ヲ愛シ或ハ邦域ノ内ニ行ハル、和平ノ習慣ヲ慕ヒ或ハ國ノ爲メ舊時ノ懷ヲ感動サレテ念々不

忘ノ情ヲ生シ或ハ唯命是レ從テ苟且偷安スルモ怨ルコトナキモノアリ若シ此愛國心ナルモノ時アリテ宗旨ノ熱心ニ刺衝サルハ亦非常ノ功ヲ奏セザルニアラザレト元來此愛國心ハ一種ノ宗旨ニシテ道理上ヨリ來ルモノニ非ズ專ラ信向熱心ノ感激スル所ナリ抑モ國殊ナレバ俗殊ニシテ或ハ王ヲ以テ國ト爲スノ國人アリ斯ル國ニテハ社稷重カラズ王輕カラズシテ愛國ノ熱心動モスレバ尊王ノ熱心ニ變シ衆人皆我王能ク四隣ヲ克服スルト云テ之ヲ誇リ我王能ク強大ナリト云テ之ヲ榮トスルコトアリ佛國ノ如キモ王政ノ昔ニ當テ唯王ノ命コレ從テ心ニ満足セルノ時代アリキ其時代ノ人ハ我王ハ世界百王ノ長ナリト云テ得意ノ談ト爲セリ

然リト雖此愛國心ハ他ノ天稟ニ發セル性情ノ如ク時ニ隨テ大勢ヲ發スヘケレ能ク持久ノ功ヲ奏スルコトナシ是ヲ以テ危窮存亡

ノ秋ニ當テハ此心能ク國ヲ禍亂ノ中ニ救ヘル太平無事ノ日ニ當テハ屢々國ノ衰頹ヲ顧慮スルノ氣風ヲ欠ク蓋シ國俗ノ尙ホ純朴ナル、信向ノ尙ホ定固ナル、夫ノ社會ノ尙ホ舊慣古俗ニ安定シテ其正僞ヲ不問ニ措クノ時代ニ在テノミヨク此愛國心ヲ維持シテ地ニ墜ルヲ無ラシムルヲ得ベキナリ

又一種ノ愛國心アリ其由テ生スル所ハ人智ノ推考ニ源シテ道理ニ適フモノナリ此愛國心ハ上者ニ比シテ或ハ慨氣熱心ヲ欠クニ似タリト雖モ盛茂恒久ノ點ニ至テハ遙ニコレガ右ニ出デリ蓋シ此愛國心ハ智識ニ生レ法律ニ育シ民權ノ施行ニ長シ其民ノ私利ト混同シテ公私彼是ノ分別ナキニ終ル故ニ此心ヲ以テ心トスルノ人ハ國ノ康寧ノ我が康寧ニ影響ヲ及スヲ知り我ヲシテ國ノ盛昌ニ參與セシムルモノハ法律ノ力アルヲ知り始ハ法律ノ我ヲ利スルガ爲メニシ

テ之ヲ興サンコトヲ思ヒ次テ法律ノ我ニ出ルヲ以テ之ヲ助ケンコトヲ思ヒ獎メザルモ人々法律ヲ貴重シテ之ヲ敢テ破ラントスル者ナキニ至ル可シ

然リ而シテ國ノ將ニ革新スルニ當テ舊慣古俗全ク一變シ公道大ニ廢頹シ宗教ノ信向震搖サレ古傳口碑其感應ヲ亡ヘル知識ノ廣布未ダ全タカラズ民權尙ホ保定ノ功ヲ欠キ或ハ權限極メテ狹窄ナルノ時期ナキニ非ズ此時ニ當テハ其民ノ眼中國ノ所在ヲ失ヒ僅ニ其形影ヲ朦朧模糊ノ中ニ認レル今日我棲ム所ノ土地ハ無情無味ノ一土塊ナレバ此土地ニ就テ昔日念々不忘ノ國ヲ求ム可ラズ然ハ則チ之ヲ父祖ノ習俗ニ求メン歟、父祖ノ習俗ハ我既ニ人ヲ拘束スルノ羈轡ナルヲ知ル、之ヲ宗教ニ求メン歟、宗教ハ我既ニ疑チ容ル、所ナリ、之ヲ法律ニ求メン歟、法律ハ公衆ノ手ニ成ラズ、之ヲ官吏ニ求メン歟、官

更ハ我畏怖輕蔑スル所ナリ、嗚呼國何處ニ在ル歟、之ヲ視ルニ見ルヲ
 ナク之ヲ聽クニ聞クヲナシ土壤ニ就テ之ヲ求ムレバ國、土壤ノ中ニ
 在ラズ文物ニ就テ之ヲ求ムレバ國、文物ノ中ニ在ラズ是ニ於テ人々
 國ヲ求ルノ業ヲ棄テ狹隘淺陋ノ私心ニ潛匿シ首ヲ抗テ世態ニ注目
 スル者尠シ此時代ノ人ヲ形容スレバ既ニ頑迷ノ域ヲ脱スレハ未ダ
 道理ノ界ニ入ラズ既ニ天稟ノ愛國心ヲ放テ未ダ推考ノ愛國心ヲ獲
 ズ方ニ兩者ノ間ニ躑躅シ進退惟谷ルノ人ト云フ可シ

今此景狀ニ居テ退却セン歟人ノ能セザル所ナリ何トナレハ一國ノ
 人民ガ古風純朴ノ情ニ復歸スルノ難キハ猶心身ノ發達シタル大人
 ガ小兒ノ赤心ニ復歸シ難キガ如シ唯之ヲ回想シテ愛惜ス可キノミ
 之ヲ事實ニ挽回スルヲ能ハザルトリ嗚呼至公純朴ナル愛國ノ赤心
 ハ一度去テ復タ歸ラズ今ニ至テ人亦何ヲ顧慮セン須ラク直行進前

シ夫ノ公私ノ利害合シテ一ニ歸スルノ時ヲ促ガスノ一事アルノミ
 余敢テ此結菓ヲ來サシガ爲メ一時ニ政權ノ施行ヲ舉テ之ヲ一般
 ノ人民ニ附與セヨト云フニ非ズ唯今ニ當テ國民ノ向背ヲ決シ國ノ
 利害ニ身心ヲ致サシムルノ術策ハ特リ彼ヲシテ政府ノ事ニ參與
 セシムルノ他ナキヲ云フノミ一般ノ國民ヲシテ良民ヲラントナシ欲
 セシムルハ特リ政權ノ施行ニ在テ存セリ歐洲諸國良民ノ増減スル
 ハ實ニ此權ノ弛張ニ從ヘリ

余輩敢テ此譯文ヲ信シ其趣意ヲ以テ全ク今ノ日本ノ事情ニ適中スル
 ト云フニ非ズ此原文ノ著書ハ佛國ノ學士ナルユヘ文中所記國ノ將ニ
 革新スルニ當テ舊慣古俗云々ノ一段モ昔年佛蘭西ノ騷亂ニ一時無君
 無政ノ有様ナリシヲ暗ニ表シ出シタルモノナラント雖モ今日ノ日本
 ハ佛蘭西ニ異ナリ君アリ又政アリ方々同日ノ論ニ非ズ然リト雖モ國

民ノ向背ヲ決シテ公共ノ利害ニ心身ヲ致サシメンガ爲ニ之ヲシテ國事ニ參與セシムルノ術策ハ正ニ余輩ノ心ヲ得タルモノト云フ可シ國民ノ向背既ニ定リ中央ノ政府ハ政權ヲ執リ地方ノ人民ハ治權ヲ執リ互ニ相依リ互ニ相助ケテ共ニ國安ヲ維持スルノ決定ヲ得ルハ人々始テ日本國ノ所在ヲ發見シテ公私ノ利害其集ル所ノ點ヲ一樣ニスルヲ得ベキナリ

近來民撰

余輩モ亦此佛國ノ學士ニ同意シ今日ヨリ政府ノ權柄ヲ舉テ之ヲ人民ニ附與セヨト云フニ非ズ唯地方ニ治權ヲ分タント欲スルノミ又其治權トテモ政權ニ密接シテ區別ノ分明ナラザル者モ多クレバ之ヲ分タントスルニモ多少ノ思慮ヲ費シテ種々様々ノ順序手續アル可キハ固ヨリ論ヲ俟タズト雖其事ノ方向ヲ示スニ至テハ一日モ猶豫ス可ラズ譬ハ旅行ノ如シ其行ク所ノ目的ヲ定メテ速ニ之ニ向テ出立ス

議院ヲ立
ルノ喧
世ニ喧
シシテ
早シト
ヒ既ニ
シト云
管テ其
非ヲ決
ルヲナ
モ必竟
立テ議
スル議
吟味セ
シテ之
論スル
故ナリ
ノ性質
問ハズ
テ其非
ハ未タ
管

ルヲ其トス假令ヒ未タ目的ニ達セサルモ既ニ道中ニ在テ足ノ向フ所ヲサヘ違ヘザレバ人情以テ安心ス可シ地方ノ治權略其緒ニ就テ誤ルヲ少ナシ乃チ中央ノ政府ニ會シテ政權ノ得失ヲ議シ治權ト政權トノ關係ヲ論シ双方互ニ過強過弱ノ弊ヲ防テ權力ノ平均ヲ保護スルヲアル可シ即チ民撰議院ノ設立ナリ先ツ之ヲ事ノ一段落トス或人云ク治權ヲ分ツノ說ハ誠ニ是ナリト雖其故サラニ之ヲ論スルニ足ラズ今日各地方ニ於テ區戶長ヲ撰舉シテ之ニ幾分ノ權ヲ附與シ其身分ヲモ平民ノ上ニ位セシメタリ分權ノ旨ニ非ズヤト蓋シ或人ハ事ノ形ヲ見テ其眞情ヲ知ラザル者ナリ今ノ區戶長ニ權ヲ附與スルト云フ其權ノ性質ハ果シテ何物ナルヤ余輩ノ所見ニテハ中央政府ノ權ヲ分テ又コレヲ細分シ恰モ其一細分子ノ權ヲ以テ之ヲ地方ノ土民ニ貸シタルモノト認メザルヲ得ズ區戶長ヲ撰フニ官撰ト云ヒ公撰ト云ヒ

テ見ザル
地獄極樂
ノ事ヲ談
スルニ等
シキノミ

喋々スルモノアレハ必竟無益ノ議論タル可キノミ官ニテモ公ニテモ
既ニ撰ハレテ其握ル所ノ權柄ハ即チ中央政府ノ一細分子ニシテ權ノ
性質ヲ異ニセザレバ區戸長ノ實ハ官員ノ末席ニシテ其身分ハ政府細
末ノ小役人ヨリ外ナラズ其職分ヲ問ヘバ上役ナル地方官ノ鼻息ヲ窺
テ唯御指令ヲ是レ伺ヒ縣官ガ地方ヲ巡廻スレバ草鞋ヲハイテ村界ニ
出迎ヒ路傍ノ喧兒ヲ制シテ先立スルノ大任アルノミ或人ノ所謂分權
ノ旨トハ此邊ノ有様ヲ指シテ云フナル歟或ハ此區戸長ガ村ノ扱所
ニ歸レバ無鳥里ノ蝙蝠自カラ官員ノ氣取リヲ以テ小前ノ者共ニ倣リ
願書ノ文句字体ヲ差圖シ用紙ノ美濃タリ半紙タルヲ咎メ一本ノ書面
ニ三四通ノ扣ヲ出サシメ一事ノ届ニ四五度ノ足ヲ勞セシムル其有様
ヲ見テ分權ノ旨ト云フ歟余輩ノ考ニハ何レモ之ヲ分權ト云ハズシテ
却テ集權ノ密ナルモノト認メザルヲ得ズ其證據ニハ諸方ノ區戸長ガ

給料ヲ受取ルニ民費ノ内ヨリスルヲ悅バズシテ地方廳ノ官費ヲ以テ
身給ノ姿ニセシテ望ムモノ多シ其コレヲ望ムハ何ツヤ明ニ政權ノ
域内ニ入ランヲ欲スレバナリ蓋シコレヲ無理ト云フ可ラズ故ニ今
ノ區戸長ハ到底官員ノ末席タルヲ免カレザレバ此地位ニ人オナキハ
固ヨリ怪シムニ足ラズ又今ノ事物ノ有様ニテ區戸長ノ位ニ人オアラ
ハ却テ世ノ中ニ苦々シキ不都合ヲ生スルニ至ル可シ譬ヘバ爰ニ才學
兼備シテ名望重キ人物ガ志ヲ屈シテ區戸長タルヲアラン其有様ハ恰
モ潜龍在田ノ勢ニシテ官ノ目ヲ以テ之ヲ見レバ半ハ之ヲ悅ビ半ハ之
ヲ怪シミ或ハ其深意ヲ疑ハザルヲナキヲ得ズ之ヲ譬ヘバ役者ノ連中
ガ舞臺ニ上テ各得意ノ藝ヲ奏スル其最中ニ此連中ノ技倆ニ等シキ歟
或ハ其右ニモ出ツ可キ一個ノ千兩役者が獨リ連中ヲ外レテ土間ヨリ
見物スル歟又ハ馬ノ足ト爲テ働クガ如シ連中ノ身ニ取テハ甚タ面白

カラズ假令ヒ此親方が實ニ藝ヲ奏シテ連中ヲ助ケザルモ唯其名前丈
ケヲモ番附ノ上段ニ記スヲアラバ大ニ安心ス可キ筈ナルニ殊更ニ馬
ノ足トハ其深意測ル可ラズ余輩ハ此馬ニ乗テ熊谷ヲ勤ルニハ少シク
氣ニ濟マヌ所アリト云フ者モアラシ或ハ稍ヤ氣ノ早キ連中ハ千兩ノ
親方ニテモ万兩ノ先生ニテモ自カラ好ム馬ノ足ナリ遠慮ハナシトテ
之ヲ鞭ツ者モアラシ又其馬ノ足モ眞實役不足ナキ者ニ非ザレバ馬ノ
足下ヨリ竊ニ馬上ノ熊谷ヲ嘲ルヲモアラシ其情實ノ苦々シキハ名狀
スルニ堪ヘザルモノアル可シ故ニ云ク今ノ事物ノ有様ニテ區戸長ニ
權力ヲ附與スルモ分權ノ旨ヲ達スルニ足ラズ或ハ偶マ此地位ニ人オ
アレバ却テ不都合ナ生ス可キナリ
或人又駁シテ云ク治權ヲ分テ地方ニ任スルノ說ニ就テハ畧其趣意ヲ
了解セリ然リト雖ヒ之ヲ事實ニ施ス可ラズ試ニ見ヨ今ノ群民公共ノ

事ニ於テハ下水ヲ浚ヘ塵芥ノ始末ニモ心ヲ用ルヲ知ラズ又彼ノ固陋
ナル舊藩士族ヲ見ヨ鎗刀ニ戀々トシテ未タ斬髮ノ決斷モナシ妻子ノ
始末ニ當惑セリ何ゾ公共ヲ思フニ違アラシヤ此輩ト共ニ治權ノ事ヲ
議スルハ石佛ニ向テ演說會ノ事務ヲ相談スルニ異ナラズ或ハ又士族
中ノ有志ナル者ヲ目的トシテ之ニ任セント欲スル歟寸前暗黒向フ見
ズノ青年書生ニ非ザレバ漢洋雜駁古代魂當世風ノ談客ノミ概シテ云
ヘバ今ノ平民ナリ士族ナリ又有志ノ學者士君子ナリ之ニ事ヲ任セン
トスルモ事ヲ執ルノ習慣ニ乏シクシテ到底有害無益ナル可シト此駁
論ハ頗ル活潑ニシテ且老練ノ意味ヲ含ムガ如クナレヒ唯有害無益ノ
四字ヲ以テ議論ノ結末ト爲スノミニシテ其害ト益トノ性質ニ至テハ
未タヨク熟考シタルモノト云フ可ラズ余輩ハ遽ニ之ニ感服スルヲ能
ハザルナリ請フ試ニ之ヲ說カン先ツ事物ノ無害無益ヲ零點ト定レバ

此點ヨリ以上ナルモノヲ無害有益ト爲シ以下ナルモノヲ有害無益ト爲ス可シ之ヲ人身ニ譬レバ無病ノ有様ヲ以テ零點ト定メ次第ニ筋骨ノ力ヲ増シテ零點ノ上ニ進ムモノハ有益ニシテ病ニ罹ルハ其以下ノ有害ナルガ如シ然リト雖ヒ人事ニ於テハ時トシテ此零點ノ位ヲ上下シテ永久ニ定ム可ラザルモノ多シ人身ニテ云ヘバ方ニ病ニ罹ルモノ如シ此時ニハ零點ノ位ヲ下タシテ病中ノ有様ヲ本位ト定メ之ヨリ上ヲ無病ニ至レバ有益ト爲シ下テ死スルモノヲ有害ト爲ス可シ未ダ筋骨ノ屈強ヲ企望スルニ遑アラズ或ハ無病ノ零點ヲ本位ニ定メ此有様ヲ見レバ害ヲ除クニ忙シクシテ益ヲ謀ルニ遑アラザルモノナリ今コレヲ治權分與ノ事ニ就テ論セソ元來コノ策ハ先ツ社會ノ害ヲ除テ然ル後ニ益ヲ謀ラントスルノ考ナリ即チ前ニモ云ヘル如ク方今我國ノ士族有志ノ輩都テ國事ノ局外ニ居ル者ハ騎者ニシテ馬ヲ失ヒ射者ニ

心身ノ力
ハ質ナリ
善惡邪正
ハ形ナリ
又色ナリ

シテ弓ヲ得ザル有様ニシテ或ハ其騎射ノ力ヲ他ノ形ニ用ヒテ國安ヲ害スルノ恐ナキニ非ズ或ハ又之ヲ撲滅スレバ滅シテ後ニ社會ノ元氣ヲ損シ其餘燼ノ力ハ輕薄狡猾ノ形ニ變シテ永久ノ間ニ國ノ繁盛ヲ害スルノ恐ナキニ非ズ斯ル有様ナレバ今ノ急務ハ先ツ此害ヲ除クニ忙シクシテ未ダ益ヲ謀ルニ遑アラズ所謂利害ノ零點ノ低キモノト云ハザルヲ得ズ此時ニ當テ彼ノ騎者射者ノ爲ニ弓馬ヲ求レテ治權ノ外ニ其物アルヲ見ズ故ニ之ニ貸スニ此權ヲ以テシテ先ツ其力ヲ伸ルノ地位ヲ與ヘテ安心ヲ得セシメ中央ノ政權ニ損スルヲナクハ仮令ヒ之ニ固テ俄ニ益ヲ生セザルモ害ヲ除クハ叶フ可シトノ趣意ニ基キシモノナリ蓋シ駁論者ノ有害無益ト云ヘル其益ノ字ハ我國ノ人民ガ今日治權ヲ得テ明日ヨリ之ヲ處置シ其整理頓齊スルヲ英亞諸國ノ民風ノ如クナルヲ期シテ字義ヲ全フスルヲナラント雖ヒ余輩ノ期スル所ハ

低クシテ遠ク、論者ノ期スル所ハ高クシテ近シ、到底利害ノ點位ヲ異ニ
スルモノナレバコレニ感服スルヲ能ハザルナリ
又論者ハ彼ノ驕者射者ニ力ヲ伸ルノ地位ヲ與ヘテ安心ヲ得セシムル
ト云フヲ駁シテ斯ノ如キハ則チ政府ニシテ人民ニ倭スルモノナリト
云ハン歟、是亦誤解ノ甚シキモノナリ、權利ヲ屈シテ他ノ意ニ適セント
スル者之ヲ倭ト云フ我ガ權利ニ損スル所ナクシテ人ヲ満足セシムル
ハ人望ヲ得ルモノナリ其形相似タリト雖モ其實ハ大ニ異ナリ、今政權
ハ中央政府ノ權利ナリ苟モ此權利ニ損スルヲナクシテ人望ヲ収ルノ
方便アラバ力ヲ盡シテ之ヲ求メザル可ラズ、管ニ治權ヲ分與スルノミ
ナラズ田舎ノ頑固物ト稱スル者ノ考モ採ル可キモノアレバ之ヲ採リ
勉テ人心ヲ籠絡スルコソ智者ノ策ト云フ可ケレ、譬ヘバ田舎者ハ東京
ノ大廈高樓ヲ羨テ各地方ノ疲弊ヲ悲シム者多シ、大廈高樓ヲ造ラザル

政府ノ法
ハ一様ナ
リ以テ
法ヲ以テ
社會全體
ノ意ニ適
ルハ固ヨ
リ能ス可
キ富者
ニ便利ナ

モ政權ニ損スルヲナクハ之ヲ造ラズシテ可ナリ、又田舎ノ風ハ質朴ニ
シテ都會ノ華美淫風ヲ憤ル者多シ、質朴ヲ勸ルモ政權ニ損スルヲナシ
バ之ヲ勸メテ可ナリ、又田舎ノ士族ハ地方ノ小吏ノ威張ルヲ見テ不平
ヲ抱ク者多シ、小吏ノ過強ヲ制スルモ政權ニ損スルヲナクハ之ヲ制シ
テ可ナリ、況ンヤ彼ノ世間ニ有力ナル民權論者及ヒ新聞記者ノ如キモ
悉皆コレヲ政府ノ味方ニ引入レ、双方ノ間ニ同情相憐ムノ念ヲ起サシ
メテ行政ノ便利ヲ助ルヲ最モ緊要ナルニ於テチヤ政府ハ人望ヲ収メ
ザル可ラザルナリ、唯中央ノ政府ニ於テ常ニ忘ル可ラザルノ要訣ハ政
權ノ行ハルハト行ハレザルトノ間ニ明ニ分界ヲ定メ、此一段ニ至テ確
然動カザルノ一事ニ在ルノミ
又駁論者ハ云ヘルヲアリ、今ノ平民士族有志ノ者ハ事ヲ執ルノ習慣ニ
乏シト此言ハ全ク無證據ノ說ナリ、論者ノ所謂習慣トハ其人物ニ在テ

ル法ハ貧
者ニ不便
ナリ愚者
ニ有益ナ
ルモノハ
智者ニ無
用ナリ故
ニ爲政ノ
要ハ社會
多數ノ意
ニ適シテ
就中其有
力者ノ望
ヲ収ルニ
在ルノミ

存スルモノ歟、將タ其地位ニ在テ存スルモノ歟、之ヲ糾サバ可ラズ、人
物ニ存スルト云ハン歟、凡ソ人類ノ子トシテ生レナガラ公共ノ事務ニ
慣レタル者ハアル可ラズ事ニ慣ル、トハ其事ニ當テ幾多ノ得失ヲ試
ミ幾多ノ歲月ヲ經テ處置ノ術ヲ得ルヲナリ故ニ事ニ當ルノ地位ヲ得
サノハ習慣ヲ得ルノ路アル可ラズ近ク其適例ヲ示サン今ノ政府ノ官
員ハ有志ノ士族ニ非ズヤ此士族ハ生レナガラ官員タル可キノ約束ヲ
以テ其天性、公共ノ事務ニ慣レタル者歟、決シテ然ラズ唯政府ニ地位ヲ
得テ幾多ノ得失ヲ試ミ幾多ノ歲月ヲ經テ事ニ慣レタル者ノミ況ンヤ
昨日マデハ純粹ノ平民士族ニシテ今日官員ト爲レバ其瞬間ヨリ公共
ノ事務ニ關シテ大ナル過モナキ者アルニ於テヤ然ハ則チ習慣ハ人
物ニ在ラズシテ地位ニ存スルヲ明ニ證ス可シ、或ハ今ノ日本國中ニ今
ノ官員ノ外、絶テ人物ナシト云ハン歟、今日世間ニ官員タラント熱中

スル者多キハ何ソヤ此熱中スル者ハ即チ政府ニ地位ヲ得テ公共ノ事
務ヲ執ラント欲スル人物ナリ試ニ今政府九省ノ外ニ新ニ一省ヲ開キ
試験法ヲ以テ其官員ヲ募ルヲアラバ一月ヲ出テズシテ天下ノ人物ヲ
得ルヤ必セリ千人ヲ要スレバ千人爰ニ集リ万人ヲ要スレバ万人立所
ニ至リ尙熱中スル者多キニ困却ス可シ故ニ云ク今ノ國事ノ局外ニ居
ル者ヲ評シテ公共ノ事ヲ執ルノ習慣ナシト云フ可ラズ又日本國中ニ
此事ヲ執ルノ人物ナシト云フ可ラザルナリ
右ハ唯論者ノ輕卒ヲ咎メタルマデノヲナレトモ余輩ハ念ノ爲ニ爰ニ又
一言セザルヲ得ズ前段所記ノ如ク事ヲ執ルノ習慣ナシト云フハ取リ
モ直サズ事ヲ執ルノ地位ナシト云フニ過キズ又其地位ナシト云フハ
權力ナシト云フニ異ナラズ故ニ今治權ヲ分與スルニ決定スルハ局
外ノ人ハ事ヲ執ルノ權力ヲ得テ心身ノ働ニ適スルノ地位ニ立ツ可シ

既ニ地位ヲ得タリ又人物アリ其事ノ整理頓齊スルハ破竹流水ノ勢ナリト云ハント欲シテ余輩決シテ之ヲ云ハズ事ヲ執ルノ習慣ハ地位ニ由テ得ベク其人物ハ日本國ニ澤山ナリト云フト雖モ如何セシ此人物ハ力ノ働ニ乏シカラザレモ此地位ニ居テ働テ用ルノ事ハ開闢以來未ダ其先例ヲ見聞シタルヲモアラザレバ前條ニ記シタル今日拜命ノ官員ガ明日ヨリ事ヲ爲ス者ト一樣ニ視做ス可ラズ恰モ政府ニハ數百餘來襲用ノ離形ヲ存シ人民ニハ此離形ナクシテ新ニ造ルノ相違アルガ如シ故ニ既ニ地位ヲ得タル上ニテモ幾多ノ得失ヲ試ミ或ハ失策ニ由テ事ヲ發明シ或ハ得策ニ慣レテ之ヲ誤ル等種々様々ノ珍事奇談モ有テ治權ノ整頓ニ至ルマデハ十年ヲ以テ待ツ可ラズ二十年ヲ以テ期ス可ラズ恐ラシハ余ガ生涯ノ中ニハ其成功ヲ見ルヲナカル可シ即チ前ニ云ヘル期スル所ノ低クシテ遠シトハ是ノ謂ナリ

以上或人ノ駁論ニ答ヘ終リテ爰ニ又余輩ノ所見ニ從ヒ治權ヲ政府ニ握ルト之ヲ人民ニ附與スルトノ疑問ニ附テ永久ノ得失ヲ姑ク問キ今日ノ實際上ニ於テ現ニ其利害如何ヲ論スルヲ左ノ如シ政府ノ事ハ活潑迅速ニシテ之ヲ行フニ易シ且其目的ヲ定ルニモ少數ノ人ニ權柄ヲ執ルガ故ニ一度ヒ定レバ容易ニ變動スルノ患少ナクシテ往々成功ノ美ナルモノアリ譬ヘバ十年以來日本國中ニ道路橋梁ヲ造テ往來ヲ便ニシ市中ニ煉化石ノ家ヲ建テ、火災ヲ防キ、都鄙ノ別ナク大小ノ學校ヲ設ケテ殆ト全國ニ周チカラントスルガ如キハ古來未曾有ノ大事業ニシテ之ヲ人民ノ手ニ任スルモ斯ル速成ヲ期ス可ラザルハ智者ヲ待タズシテ明ナリ、政府ノ事ハ活潑迅速ニシテ之ヲ行フニ易シ是レ其一利ナリ、然リト雖モ凡ソ人間社會ニ於テ實ニ難キ事ヲ易クスルノ法アル可ラズ或ハ其形ヲ見レバ易ク成功ヲ得タルガ如キモノアルモ其

功ヲ成スノ際ニ多少ノ無理ナキヲ得ズ譬ヘバ暑中ニ蜜柑ヲ食ヒ寒中ニ西瓜ヲ得ントスルガ如シ之ヲ得ルノ術ナキニ非ザレトモ實理ニ於テ難キ事ナレバ其術ヲ施スノ際ニ必ス無理ナキヲ得ズ其無理トハ何ゾヤ錢ヲ費スフ即是ナリ錢ニ眼ヲ着セズシテ唯西瓜ヲ得タル形ノミヲ見レバ寒中ニテモ甚タ容易ナルガ如クナレトモ其實ハ錢ヲ以テ無理ヲ價フタルモノト云フ可キノミ固ヨリ公共ノ事務ハ少人數ノ家内ガ節儉ヲ守テ擅増ヲ調理スル者トハ全ク其趣ヲ殊ニシ自カラ止ヲ得ザル次第ヲ以テ浪費亂用ヲ免カレザルハ世界万国ノ通弊ニシテ獨リ我日本ノミナ咎ム可ラズト雖モ國ノ貧富ヲモ察セザル可ラズ時ノ緩急ヲモ考ヘザル可ラズ且既ニ之ヲ通弊ト稱シテ弊ノ字ヲ下タスハ他ノ弊ニ倣テ之ニ安ソスルノ理ナシ其弊ヲ却ケントシ其害ヲ掃ハントシ百方術ヲ盡シテ却掃シ能ハザル者コソ眞ノ弊害ト云フ可ケレ滔々

タル世界ノ通弊トテ自カラ其滔々ノ中ニ在テ安心スルノ理アル可ラズ試ニ今政府ノ着手シタル建築ナリ又學校ナリ詳ニ精算ヲ施シテ其價ト其品物トヲ比較スルヲアラバ必ス暑中ノ蜜柑寒中ノ西瓜ニ類スルモノアルヲ見ル可シ譬ヘバ學校ハ生徒ヲ教育スル爲ノ品物ナリ今少シク近ク云ヘバ生徒ハ品物ニシテ學校ノ入費ハ價ナリ今コノ學校ヲ造ルニ造作什器庭園外圍共一切ノ入用ヲ合シテ建物一坪ニ付キ幾圓ニ當ルヤ此建物ニ生徒幾人ヲ入レバ一名ニ付キ幾圓ヲ要スルノ割合ナルヤ三十万圓ノ建物ニテ三百ノ生徒ヲ教レバ一名ノ入用千圓ニシテ一割ノ利足トスレバ衣食教授ノ外ニ百圓ヅハノ入費ナリ建物既ニ落成スレバ内外ノ教師ヲ雇ヒ官員ヲ命シ建物ヲ修覆シ書籍器什ヲ漸次ニ買入レ又コレヲ取替ヘ筆紙墨薪炭雜巾ノ雜費ニ至ルマデ一切各算シテ之ヲ名ケテ學校ノ定額ト云フ此定額ノ金ヲ生徒ノ頭數ニ割

付ケ之ニ建物ノ元金ノ利足ヲ加ヘ之ヲ一年ニ平均シ又三年ニ平均スルヲアラバ今ノ官校ノ生徒ハ價ノ安キ品物ト云フ可ラズ但シ學校ノ勘定ハ唯一例ヲ示シタルノミ尙ヨク意ヲ用ヒテ吟味ヲ致サバ此類ノ事ハ外ニモ多カル可シ故ニ云ク政府ノ事ハ活潑迅速ナレモ錢ノ勘定ニ至テ割ニ叶ハザルモノ多シ是レ其一害ナリ

生誕ノ地ニ戀々シテ之ヲ忘ル、一能ハズ故郷ヲ思ヒ故友ヲ親愛シ他ノ榮枯ヲ見テ己ガ喜愛ト爲スノ情ハ人ノ天性ナリ既ニ喜愛ヲ共ニス其財ヲ惜ミ其便益ヲ謀ルハ固ヨリ論ヲ俟タズ故ニ人民公共ノ事ハ恰モ人々自カラ利シ自カラ愛スルノ性情ヲ押ヘテ之ヲ抵當ニ取タル姿ニシテ其財ヲ理スルノ際ニ首尾顛末ノ不都合アルヲ少ナク之ニ加フルニ各地ノ古俗舊習他人ノ得テ臆測スルヲ能ハザルモノヲ斟酌シテ緻密微妙ノ處置ヲ施ス可キノ便利アレバ所謂無理ノ行ハル、一少ナ

キモノト云フ可シ譬ヘバ從前田舎ノ農民ガ公共結社ニ類スル事ヲ行フニモ必ズ其時節アリ春ハ麥田ノ手入ヲ終テ伊勢參リノ講中ヲ結ヒ、夏ノ田植ノ後ニ村ノ道路ヲ修覆シ、秋作ヲ收納シテ冬ノ村社ヲ祭ルガ如キハ何レモ事物ノ順序ニ無理ナキモノト云フ可シ又方今諸方ニアル橋ニテモ道路ニテモ又、學校ニテモ其初コレヲ造ルキニ官ヨリ之ヲ強ユルヲ甚タシカラザリシモノ程、永續ノ見込アルガ如シ、又今ノ私塾ト官ノ學校トヲ比較スレバ其費用ノ相違、万々同日ノ論ニ非ズ一校ノ入費ヲ以テ同様ノ私塾二三ヲ支ヘテ尙餘アル可シ然ルニ此私塾ノ教師ヲ引テ官ニ入レバ乃チ又官學校ノ官員教師ニシテ之ヲ調理スルヲ能ハズ其人物ノ良否ニ非ズ地位ノ然ラシムルモノナリ故ニ人民ノ私ニ行ハル、理財ノ事ハ順序ヲ存シテ首尾顛末ノ不都合少ナシ是レ其一利ナリ然リト雖モ人民ガ事ヲ行フニハ目的ヲ定ルヲ固カラズ或ハ

之ヲ定ルモ仲間ノ中ニ様々ノ異論ヲ生シ自カラ建テ、自カラ毀テ徒ニ時日ヲ費シテ緩漫ニ亘ルノ弊ヲ免レズ些細ノ事ナリト雖モ葬式ノ出テ立テ、無盡講ノ會席ニ混雜ノ多キヲ見テモ之ヲ知ル可シ故ニ官ノ事ハ財ヲ失ヒ人民ノ事ハ時ヲ失フト云フモ可ナリ蓋シ威力ヲ恐怖シテ命ニ從フニ慣レタル者ナレバ官ト名ル威力ヲ除ケバ事物ノ順序モ其ニ消散シテ恰モ無首ノ手足ガ其運動ヲ自在ニスルガ如シ尙コノ際ニモ依頼ス可キ者ハ人民中ノ人物ニシテ此人物ガ才德ノ働ヲ以テ人ヲ籠絡セハ或ハ事物ノ緒ニ就クモアル可シト雖モ人物ト稱スル者ニ限リテ思慮深キモノナレバ今俄ニ治權ヲ人民ニ分與スルト決定スルモ容易ニ之ニ手ヲ出ス者ナクシテ事ハ依然トシテ緩漫ナル可シ尙コレヨリモ甚シキハ輕卒ナル士族有志ノ輩ガ治權ヲ得タルヲ以テ拍手快ト稱シ恰モ治者ノ特權ヲ得タル氣取リニテ年來得意ノ壓制ヲ逞

フシ或ハ政權治權ノ區界モ分明ナラズシテ政府ト下民トノ間ニ現ニ無數ノ小政府ヲ造リ出シ此ノ事ヲ禁シ彼ノ事ヲ差圖シ賄賂大ニ行ハレ苦情湧クガ如キ有様ナキヲ期ス可ラズ是即チ分權ノ一害ナリ右ノ如ク今日ノ實際上ニ於テ治權分與ノ利害ヲ比較スレバ各相半メテ明ニ是非ヲ決シ難シ或ハ舊慣ニ依レバ之ヲ分與セザルノ穩ナルニ若カザルガ如クナレハ人々ヲシテ日本國ノ所在ヲ知ラシメ推考ノ愛國心ヲ永遠ニ養ヒ獨立ノ幸福ヲ後世子孫ニ讓ラントスルニハ今ヨリ其方向ヲ定ルノ外ニ手段ナカル可シ人民ニ權力ヲ授ルハ小兒ノ手ニ利刀ヲ渡スガ如シ兒心未タ一身ノ利害ヲ知ラズシテ自カラ疵ルヲモアラソ、或ハ他ヲ害スルノ是非ヲ辨セズシテ人ヲ切ルヲモアラソ之ヲ傍觀スルニ堪ヘズト雖モ如何セシ此小兒ヲシテ此刀ヲ御セシメントスルコハ瞑目シテ之ニ利刀ヲ渡シ其自カラ懲リ自カラ慣ル、ノ日ヲ

得ツノ一法アルノミ況ンヤ方今我國ノ事態ニ於テハ永遠ヲ謀ルノ外ニ又焦眉ノ急トシテ士族有志ノ輩ヲ處置スルノ要務アルニ於テチヤ此輩ノ働ヲ満足スルノ術策モ分權ノ外ニ求ム可ラズ或ハ又前條ニ云ヘル如ク仮令ヒ分權ノ名義ヲ定ルモ政權治權ノ分界明ナラズシテ專制ノ弊ヲ免レ難キ事情モアラント雖ヒ結局治權ノ出ル所ハ政權ト其源ヲ異ニシ權柄ヲ握テ專制ヲ施サントスル所ノ相手ハ正シク其權ノ出テ出ル所ノ源ナレバ其關係ハ恰モ雇人ニシテ旦那壓シ客ニシテ主人ヲ制セントスルニ異ナラズ既ニ主人ノ地位ヲ占ム何ソ客ノ壓制ヲ甘スル者アラシヤ意ニ適セザレハ之ヲ放逐ス可キノミ加之都テ世ノ中ノ人事ハ實理ヨリモ想像ニ由テ行ハルハ多キモノナレバ譬ヘバ地方ニ於テ治權ヲ行フガ爲ニ代議人ヲ撰ビ此議員ガ仮令ヒ專制ニ紛ハシキ事ヲ行フモ人民ノ方ニハ此議員ヲ進退スルノ權アルガ故ニ

其想像ニ安ンシテ却テ之ヲ進退スルヲナク暫ク他ノ行フ所ニ任シテ其働ヲ逞フセシムルヲモアル可シ人心ノ不羈自由トハ正ニ此邊ニ在テ存スルモノナリ分權ノ決定今方ニ其時ナル歟若シ夫レ果シテ然ラバ徒ニ顧慮シテ時機ヲ誤ルヲ勿カル可シ

嘉永以前鎖國ノ日本ナレバ國ノ仕組恰モ家族ノ如クニシテ政府タル者ハ父母ナリ教師ナリ又金主ナリ一切万事官ノ手ニ任シテ人民ハ其差圖ニ從ヒ治亂興廢コレヲ傍觀スルモ社會肉體ノ生々ニ於テ妨アルヲナク漢學者流ニ之ヲ評スレバ万民鼓腹ノ太平ト稱シテ安心ス可キナレバ外國ノ交際一度ヒ開テヨリ以來ハ商賣モ工業モ學問モ技藝モ悉皆外國ヲ敵手ト爲シテ之ト鋒ヲ爭ハサル可ラズ然モ我が政府ト彼ノ政府ト對立スルノミニ非スシテ我が國民ト彼ノ國民ト近ク相接シ一步ヲ讓レバ正シク我國ニ一步ノ進歩ヲ蒙ルノ勢ナレバ政府ノ一手

ヲ以テ人民ヲ保護訓導スルコト父母教師金主ノ如クセントスルモ又今日ノ實際ニ行ハル可キ事ニ非ズ之ヲ一家ニ譬レバ賓客ノ出入ナキ間ハ一個ノ主人モヨク子弟ヲ教ヘテ之ヲ始末ス可シト雖モ俄ニ門戸ヲ開テ衆客ノ來訪ヲ許シ雜沓混亂スルニ至レバ逐一主人ノ命ヲ傳ルニ迫フル可ラズ止ムヲ得スシテ其子弟婢僕ヘモ客ニ接スルノ習慣ヲ得セシメ人々ノ工夫ニ任シテ應接ノ不都合ヲ防クノ他ニ方便アルコトナシ即チ一國ノ人民ニスレバ人々ヲシテ自治ノ習慣ヲ養成シテ外國ノ交際ヲ維持セシムルコトナリ然ルニ今コノ自治ノ習慣ヲ養フニ何ヲ以テ始メシ歟先ツ自國ニ在テ自治ノ地位ヲ占メ然ル後ニ外交ニモ及ホス可キノミ其自治ノ地位ヲ占メ自治ノ精神ヲ養フノ路ハ地方ノ治權ヲ執テ公共ノ事ニ參與スルヨリ外ニ實地ノ良策アル可ラズ故ニ地方分權ハ外國交際ノ訓練ト云フモ可ナリ是即チ余輩ガ分權ノ急ヲ論シ

テ今正ニ時ナリト稱スル所以ナリ國ヲ立ルノ風ニ二様ノ別アリ細根相集リテ千種萬狀ノ盤根ト爲リ其盤根又集リ又合シテ遂ニ一大幹タル全國ヲ支ヘテ文明ノ枝葉ヲ繁茂セシムルモノアリ或ハ一條ノ大幹其根ヲ下タスコト深カラズト雖モ一種ノ力ニ由テ土壤津液ヲ吸收シ以テ無數ノ枝葉ヲ維持スルモノアリ此二様ノ大木其外形ハ相似タリト雖モ大風暴雨ニ遭フニ至テ始テ實ノ強弱ヲ見ル可シ一條ノ巨根ハ幾多ノ細根ニ若カズ四足ノ「テール」ハ安置スルニ易ク傘ヲ開テ地ニ立ルハ難シ學者若シ爰ニ眼ヲ着シテ靜ニ推考セバ或ハ大ニ發明スルコトアル可シ

編末ニ至テ尙一言スルコトアリ此一編ハ士族ヲ目的ニシテ論ヲ立タルコトナレモ前既ニ云ヘル如ク必スモ身分ノ士族ナル者ノミヲ指スニ非ズ方今四民同等ノ世態ニ變シタル上ハ固ヨリ人爲ノ身分ヲ論ス可

ヲズ目的ハ唯人ノ心身ノ働ニ在ルノミ而シテ此働ノ國事政治ニ關スル部分ニ就テ四民ニ固有スルモノ、多少輕重ヲ量ラントスルニ四民ノ身分ヲ混同シタルハ之ヲ譬ヘバ砂ト灰ト芥トチ一器ノ水ニ入レテ攪攪シタルガ如シ其沈澱ノ景況ヲ見ルニ底ニ沈ムモノハ砂ニシテ其上ニ灰ノ一層ヲ澱シ芥ハ浮テ水面ニ在ル可シ今四民ヲ攪攪シテ之ヲ見レバ士族ノ中ニモ水面ニ浮フ者必ス多カラシ三民ノ中ニモ底ニ沈ム者必ス多カラシト雖モ一般ニ其多少ノ量ヲ計レバ士族ハ重クシテ三民ハ輕キ者ト云ハザルヲ得ズ此重キ者ノ中ニ既ニ其働ノ形ヲ變シタル者アリ未タ之ヲ變セサル者アリ故ニ立論ノ趣旨ハ既變ノ者ヲシテ先ツ其所ヲ得セシメ其力ヲ次第ニ未變ノ者ニ及ボシテ之ヲ化セントスルノ義ニシテ即チ間接ニ士族ノ働ヲ變形セシムルトハ是ノ謂ナリ或ハ働ノ量ヲ固有シ又其變形ノ機會ヲモ得テ尙舊套ヲ墨守シテ變

化スルヲ能ハザル者モアラン此輩ハ到底不平ヲ抱テ朽果ルノ一路アルノミ之ヲ顧ルニ遑アラズ又彼ノ水面ニ浮フ芥ノ如キハ之ヲ變形セシメシトスルモ變ス可キノ働ナキ者ナレバ其働ノ生スルヲ待ツノ外ニ手段アル可ラズ學校ハ蓋シ此働ヲ造リ又其量ヲ増加スルノ製造局ナリ此事ニ就テハ他日又余輩ノ所見ヲ以テ少シク論スル所アル可シ又此一編ハ初ヨリ終ニ至ルマテ悉皆政治國事ノ議論ノミニシテ學者ノ目ヲ以テ之ヲ見レバ其意味淺近ニシテ殆ト殺風景ノ如クナレトモ余輩ノ考ニハ後世子孫斯ル淺近ナル議論ヲ要セザルノ時節ヲコソ企望スル所ナレ今ノ時ニ當テハ我人民ハ國ノ所在ヲ知ラズ國ノ所在ヲ知ラザルハ人ニシテ家ナキガ如シ人ニシテ住居ノ家ナクハ學問モ商賣モ手ニ附ク可ラズ今試ニ學者ニ向テ其勉強スル由縁ヲ問ヘバ答テ云ク成業ノ上ハ官員タル可シ又教師タル可シト又問テ云ク官員ハ群集

シテ容易ニ欠員アラザレハ先ツ教師ナラン而シテ此教師ト爲テ生徒
ヲ教ヘ其生徒ハ何ノ用ニ供スルヤ生徒ガ教師ト爲テ又生徒ニ教ヘ其
内ニハ町人タル者モアラソ百姓タル者モアラソ町人百姓ガ學者ト爲
リテ何用ヲ爲スヤ學問ノ必得アレハ商賈ニモ工業ニモ自カラ規律ヲ
立テ產ヲ起シ財ヲ積ムヲ速ニシテ大ナラント雖此財ヲ積テ何事ニ
用ルヤ之ヲ子孫ニ傳ル歟子孫ハ又此財ヲ何事ニ用ルヤ子孫ハ父祖ノ
遺物ヲ受ケテ安樂ニ世ヲ渡ラン歟安樂無爲ニシテ唯肉體ノ生ヲ保ツ
ハ殆ト鳥獸ニ異ナラズ或ハ許多ノ財本ヲ以テ大工業ヲ起シ或ハ學校
ヲ設立シ或ハ通運ノ路ヲ開キ公共ノ益ヲ謀テ國ノ爲ニシ以テ外國ト
富強ヲ競ハン歟國ノ爲ニセントシテ其國何處ニ在ルヤ人民ノ與リ知
ル所ニ非ズ然ハ則チ今ノ學者ノ日夜孜々トシテ勉強スルハ果シテ何
ノ爲ニシテ其目的何處ニ在リヤト一答一問其到ル所ノ底ヲ極レハ學

者モ殆ト困迫シテ答ルニ辭アルコトナシ是即チ余輩ガ敢テ辨チ好ンテ
此一編ヲ記シ國ノ所在ヲ明ニセシコトヲ務メタル由縁ナリ獨リ卓見ノ
識者ハヨク國事ノ外ニ逍遙シテ彼ノ愛國心ノ如キモ之ヲ一種ノ熱慾
ニ附シ却テ人間社會ノ進步ヲ百千年ノ後ニ期シ其議論高尙ニシテ然
モ迂濶ナラズ實ニ學者ノ爲ニ安身立命ノ地ヲ示スモノナレト如何セ
ン世上ニ幾個ノ讀者アル可キヤ又コノ高尙ナル議論ヲ述ルモ之ヲヨ
ク解スル者ハ果シテ何人ヤ余輩必ズ其人ノ嚆ナキヲ知レリ今ノ時ヲ
救フニ急ナリ他ハ之ヲ後日ニ期ス

附錄

一 本編ハ地方分權ノ大畧ヲ論シタルモノナレトモ分權ノ議
 論アレバ分財ノ議論モ亦ナカル可ラズ蓋シ權ト財トハ
 大概其通行ノ路ヲ共ニシテ權ノ集ル所ニハ財モ亦集リ
 權ノ分ル、所ニハ財モ亦共ニ分ル、モノナリ故ニ今別
 ニ一編ノ分財論ヲ著シテ始テ本編ノ意ヲ全フス可シト
 雖ヒ理財ノ事ヲ吟味スルニハ先ツ統計表ノ詳ナルモノ
 ナカル可ラズ即チ西洋ニ所謂「スタチスチク」是ナリ然ル
 ニ舊幕府ノ時代固ヨリ此表ヲ記シタルモノアラサレバ
 今日ニ在テハ博ク諸書ヲ詮索シテ先ツ之ヲ統計表ノ形
 ニ作り其表ヲ以テ理財ノ本義ニ照合シテ始テ分財集財
 ノ得失ヲモ明ニス可キナレトモ其事業ヲ企テントスル

モ數月ノ勞ヲ以テ能ス可キニ非ス加之維新以來ノ政府
ノ會計トテモ其細密ナル精算ヲ知ル可ラサレバ止ヲ得
ズ分財ノ議論ハ之ヲ他日ニ譲リ唯此議論ニ就キ我輩ガ
目的トスル所ノ吟味ノ趣向ヲ示ス左ノ如キノミ今日
ニテモ世上有志ノ士ニ此吟味ノ路ヲ得テヨク其力ヲ盡
シ國財分集ノ利害得失ヲ明スル者アラハ獨リ余輩ノ悅
ブノミナラズ社會一般ノ大幸ト云フ可シ

國財分集吟味ノ趣向

一 德川政府ノ時代天保二年日本六十八國及ビ琉球國總計
稅額三千〇五十五萬八千九百十七石余

但

禁裏仙洞御所

四萬〇二百四十七石余

御料所庚寅入

四百十九萬千二百二十三石余

萬石以上

二千二百四十九萬九千四百九十七石余

寺社御朱印地

二十九萬四千四百九十一石余

高家交代寄合

十七萬九千四百八十二石余

除地萬石以下拜領及
込高

三百三十五萬四千〇七十七石余

右ハ世上ノ寫本ニアリ此高ハ所謂草高ナラン、草高ニテ
モ實ノ數ナレバ吟味ノ證ト爲ス可ケレト諸大名以下ノ
領地ニ隱シ高ナルモノ有テ其割合ヲ知ル可ラズ

此割合ヲ探リ出シ、御料所四百万石ノ内、幾分ヲ江戸ニ費
シ、幾分ヲ各地方ニ費シタルヤ、万石以上以下ノ幾千万石
ハ其内幾分ヲ江戸ニ費シ、幾分ヲ地方ニ費シタルヤ、都テ
其米ハ何レノ路ヨリ何レノ處ニ賣リ其代金ヲ何レノ法。

ニ用ヒタルヤ

一 徳川ノ時代ニ通用金銀貨幣ノ全額ハ何程ナリシヤ、諸藩ノ札ハ各何程ニシテ理財上ニ何等ノ功用ヲ爲シタルヤ、都會ノ町人ノ間ニ行ハレシ手形ナルモノハ其性質如何

一 方今政府ノ歳入凡ソ六千八百万圓ノ内、諸縣廳ノ入費及ビ營繕堤防士族ノ家祿其外ノ用トシテ各地方ニ費ス高何程、諸官省ノ入費華族及ビ在東京士族ノ家祿其外ノ用トシテ東京ニ費ス高何程、又東京ノ費ノ内ヨリ外國ノ物品ヲ買ヒ外人ニ給料ヲ與ヘ、外債ノ利足ヲ拂ヒ、外國公使館及ヒ領事館ノ費ニ供スルヲ何程ナルヤ、政府ノ歳入凡トハ明治八年十二月二十二日
第二百拾六号ノ布達ニアリ

一 日本全國ノ税額ヲ首府ト地方トニ分配シテ費ス其割合ニ付キ舊政府ノ時代ト新政府ノ時代トヲ比較シテ何レノ時代カ首府ニ費スコト多キヤ

一 舊政府ノ時代ニ無用ノ大名士族ヲ各地ニ養タルハ理財上ニ論ズンバ恰モ遊民ニ國財ヲ俸シタルガ如クナレトモ財本融通ノ一點ニ至テハ便利モ亦有リシヤ、無カリシヤ富豪ノ商人ト大祿ノ士族ト世間ノ金融ノタメニ其功用自カラ別アラシ、其區別ハ如何シ

一 大名士族ハ假令ヒ地方ノ爲ニ金融ノ一助タル可シト雖モ此金融ノ便利ヲ買ハンガ爲ニ世祿ヲ復ス可ラザルハ論ヲ俟タズ然ハ則チ今新ニ此便利ヲ設ケントスルノ法ハ如何シテ可ナラン歟

一 今ノ政府ハ今ノ税額ニテ正ニ維持シテ過不足ナキ歟、假
ニ之ヲ増シテ差支ナクハ何事ニ着手スルヲ最モ緊要ナ
ル可キヤ、又假ニ今ノ税ヲ減スレバ何事ヲ止メテ差支ナ
キヤ

一 紙幣流通ノ高凡九千四百萬圓余、コレニ金額銅貨現在ノ
高ヲ合シテ何程ナルヤ、此内ヨリ政府ノ權内ニ在ル租稅
六千八百萬圓ヲ引キ人民ノ手ニ在ルモノ何程ナルヤ
一 外國貿易ハ地方ノ産業ニ何等ノ差響ヲ起スヤ製造品ヲ
輸入スレバ日本ノ製造ハ自カラ衰微シ之ニ加フルニ我
製造者ニ金融ノ便ナケレバ益コレヲ怠リテ遂ニハ製造
ノ術ヲ忘ルハ、ノ患アルヤ否ヤ、又貿易ノ行ハル、地ニ金
融ノ便利ナルト不便利ナルトニ由テ貿易ノ盛衰ヲ致シ

金融便利ナレバ意外ニ輸入ヲ増スノ理アルヤ否ヤ
右ハ大凡余輩ガ國財分集ノ事ニ就テ吟味セント欲スル
箇條ニシテ此條々ヲ詳ニスルヲ得ハ分財論ヲモ著シテ
大ナル過ナカル可シトノ趣向ナレトモ唯其趣向ノミニシ
テ俄ニ其實ニ從事スルヲ得ズ遺憾少ナカラザルナリ現
ニ今日地方ノ有様ヲ見ルニ租稅昔年ニ比シテ苛刻ナル
ニ非ズ土地ニ由リテハ却テ寛ナル所モアリ加之豐年モ
打續テ民間ハ繁昌ス可キ筈ナルニ疲弊ノ苦情ハ湧クガ
如クニシテ聞クニ堪ヘズ人民俄ニ懶惰ニ沈ミタル歟、人
民ノ働ハ一朝ニ無ニ歸ス可キモノニ非ズ然ハ則チ働カ
ント欲シテ仕事ナキ歟、物ヲ作テ賣捌ノ場所ナキ歟、原因
ハ必ズ此邊ニ在ルヲナラン

此疲弊ナルモノ唯一時ノ疲弊ニシテ今ノ事物ノ有様ニ
從ヒ早晚コレヲ恢復スルノ目途アレバ一時ヲ忍テ永年
ヲ待ツ可シト雖モ若シ然ラズシテ阪道ノ次第ニ下ルガ
如ク、年齢ノ次第ニ老スルガ如ク、漸次ニ低ニ就クノ有様
ニテ今正ニ其途中ニ在ルモノトセバ此時ニ當テ學問モ
商賣モ手ニ附ク可ラス余輩又爰ニ本編ノ問題ヲ掲ケ之
ヲ今ノ官員ト商人トニ質シテ云ハソ官員ハ世官ニ非ス
ニ代目ノ子弟ハ何事ニ用ルヤ或ハ家ヲ續テ官員タルヲ
モアラント雖モ他ニ又官途ニ進ム者モ多クレバ十名ノ
官員ガ二十名ノ男子ヲ生メバ少ナクモ十五名ハ不用タ
ラサルヲ得ズ必ス商工ノ業ニ從事セシムルヲナラン、即
チ商人ナリ商人ト爲テ舊商人ニ打交リ共ニ中央ノ首府

ニ群集スル歟、首府トテ其仕事ニハ限アル可シ必ス財本
ヲ携テ田舎ノ地ヘ行クヲナラント雖モ時節既ニ後レタ
リ其時ニ至テハ地方ハ既ニ已ニ疲弊シ盡シテ山林ヲモ
裸ニシタル有様ナラン、此貧乏ノ最中ニ父ノ貯蓄シタル
金ヲ散シテ人ニ貸サント欲スル歟、燒ケ石ニ水ヲ灌クガ
如ク一度ヒ貸シタルモノハ去テ復タ還ラズ此貸金ノ出
入ヲ整理セシニハ義理モ情ケモアル可ラズ所謂高利貸
シノ風ヲ學テ貧民ヲ御スルヲ奴隸ノ如クセサルヲ得ズ、
我愛子ガ奴隸ノ主人ト爲テ怨ヲ買フハ父母ノ心ニ於テ
面白カラヌヲナラン、然ハ則チ寧ロ田舎ニ行カズシテ都
下ニ居リ其貯蓄ヲ居食ヒニセシ歟、人生僅カ五十年、日ニ
一圓ヲ費シ一萬八千圓ヲ以テ生涯ヲ渡ル可シ或ハ五千

圖計リノ不動産ヲ買ハバ少ナクモ一年三百六十圓ノ歳入アラソ亦以テ日ニ一圓ヲ費ス可シ然リト雖モ父ノ遺物ニ依頼シテ生ヲ保ツ者ハ肉体ノ生ヲ有シテ社會ノ生ヲ有セサル者ナリ社會ノ幸福ヲ目的トシテ論スルモハ恰モ父ノ一生ヲ父子ノ二生ニ分テ、二生ノ間ニ一事ヲ爲シ、三千萬ノ人口ヲ以テ千五百萬ノ働ヲ得ルガ如シ到底其子ハ遊民ノ譏ヲ免カレ難シ、我愛子ガ遊民タルモ父母ノ心ニ於テ亦面白カラヌヲナラソ、サレバ今ノ官員ナリ又商人ナリ孜々トシテ勉強スルハ何ツヤ假令ヒ其一代ハ社會ニ便益ヲ爲シ其身ニモ亦名利ノ香シキアルモ二代目ノ策ハ之ヲ如何ス可キヤ一答一問遂ニ答ルニ辭ナカル可シ余輩爰ニ司馬溫公ノ家訓ニ擬シテ云ク金ヲ積

テ子孫ニ遺ス子孫必スシモユク之ヲ守ルヲ能ハズ、若カズ分財ノ大義ヲ明々ニ主張シ以テ子孫自カラ働テ自カラ食ヒ自他ノ利益ヲ全フシテ社會一般ノ幸福ヲ達ス可キノ地位ヲ作ルニハ即是レ經濟ノ趣旨ニシテ今世ノ龜鑑ナリト

~~084.7-40.~~
310.4-4

明治十年十月廿六日版權免許

定價四十錢

著述出版人

東京三田貳丁目貳番地

福澤諭吉

賣捌書林

同芝三嶋町拾四番地

山中兵衛

同

同日本橋通三丁目拾四番地

九家善七

同

同三田貳丁目貳番地

慶應義塾出版社